

ユーザーズ・マニュアル

_PROPHET-5 V

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun Kevin Molcard

開発

Marie Pauli (Lead)	Alexandre Adam	Geoffrey Gormond	Patrick Perea
Fanny Roche (Lead)	Corentin Comte	Marius Lasfargue	Stéphane Albanese
Kevin Arcas (Lead)	Samuel Limier	Marc Antigny	Pascal Douillard
Christophe Luong (Lead)	Rasmus Kürstein	Pierre-Lin Laneyrie	Pierre Mazurier
Baptiste Aubry	Alessandro De Cecco	Yann Burreer	
Mathieu Nocenti	Hugo Caracalla	Loris De Marco	
Raynald Dantigny	Mauro De Bari	Cyril Lepinette	

デザイン

Callum Magill (Lead)	Pierre Pfister	Florian Rameau	Morgan Perrier
Edouard Madeuf	Maxence Berthiot	Shaun Ellwood	Heloise Noir

サウンド・デザイン

Jean-Michel Blanchet (Lead)	Quentin Feuillard	Florian Marin
Lily Jordy	Maxime Audfray	

テストイング

Arnaud Barbier (Lead)	Aurélien Mortha	Thomas Barbier	Enrique Vela
Germain Marzin	Julien Viannenc	Adrien Soyer	Benjamin Renard
Matthieu Bosshardt	Roger Schumann	Bastien Hervieux	Nicolas Stermann

マニュアル

Stephen Fortner (author)	Gala Khalife	Holger Steinbrink
Jimmy Michon	Minoru Koike	Justin Trombley

ベータ・テストイング

Luis Rodriguez	Marco Correia Koshdukai	Pagnier	Adrian Dybowski
Gary Morgan	Bernd Waldstädt	Terry Marsden	Stephen Wey
Chuck Zwicky	TJ Trifeletti	Fernando Manuel Rodrigues	Jeremy Bernstein
Mat Herbert	Paolo Apollo Negri	Chuck Capsis	George Ware
Davide Puxeddu	Peter Tomlinson	Jeffrey M Cecil	
Andrew Capon	Guillaume Hernandez-	Bastiaan Barth	

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 8 June 2022

使用上のご注意

本マニュアルは、Prophet-5 V の各種機能や使用法、ダウンロードやアクティベートの方法をご紹介します。まずは、大切なお知らせです：

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による、誤った操作から発生する問題に対するサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要求することをお勧めします。

はじめに

Prophet-5 V お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

優れた製品を開発するという Arturia の情熱は、Prophet-5 V においても例外ではありません。プリセットを選ぶだけでも、わずかにエディットするだけでも、完全に没頭するほどディープにダイブするのも、すべてお好み次第、思いのままです。

Arturia のハードウェアやソフトウェアインストゥルメント、エフェクト、MIDI コントローラー等各種製品のチェックに、[Arturia ウェブサイト](#)をご活用ください。アーティストにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. PROPHET-5 V へようこそ！	4
1.1. Prophet-5 について.....	4
1.2. Arturia 秘伝のレシピ：TAE®.....	6
1.2.1. エリアシングフリーのオシレーター	6
1.2.2. アナログオシレーター波形の高い再現性	7
1.2.3. ボイスディスバージョン.....	8
1.3. Prophet-5 V 主な特長.....	8
2. Activation and Setup - アクティベーションと最初の設定.....	9
2.1. 製品登録とアクティベーション	9
2.1.1. Arturia Software Center (ASC)	9
2.2. 最初の設定 (スタンドアローンモード).....	9
2.2.1. オーディオと MIDI の設定：Windows.....	10
2.2.2. オーディオと MIDI の設定：macOS.....	12
2.2.3. Using Prophet-5 V in Plug-In Mode - プラグインモードで使用する	12
3. The User Interface	13
3.1. パネル概要	13
3.2. The Upper Toolbar - アッパーツールバー	14
3.2.1. Main Menu - メインメニュー.....	14
3.2.2. プリセットツールバーエリア	16
3.2.3. アドバンストパネルボタン	17
3.2.4. ギアアイコン.....	17
3.3. The Lower Toolbar - ロワーツールバー.....	18
3.3.1. Left Side - ロワーツールバー左側	18
3.3.2. Right Side - ロワーツールバー右側.....	19
3.4. The Side Panel - サイドパネル	21
3.4.1. Settings Tab	21
3.4.2. MIDI Tab	23
3.4.3. Macros Tab	27
3.4.4. Tutorials - チュートリアル.....	28
4. The Preset Browser	29
4.1. Search and Results - サーチ & リザルト.....	30
4.2. Using Tags as a Filter - タグでフィルタリング.....	31
4.2.1. Types.....	31
4.2.2. Styles.....	32
4.2.3. Banks	32
4.3. サーチ結果表示.....	33
4.3.1. リストの並べ替え	33
4.3.2. タグを外す.....	33
4.3.3. Liking Presets - "いいね"をつける.....	34
4.4. Sidebar - サイドバー	35
4.4.1. My Sound Banks.....	35
4.4.2. My Favorites.....	37
4.4.3. My Playlists	38
4.5. Preset Info Section - プリセットインフォ.....	39
4.5.1. 複数のプリセットの情報を変更する	40
4.6. プリセットの選択：別の方法.....	41
4.7. Macro Knobs - マクロノブ.....	41
4.8. Playlists - プレイリスト	42
4.8.1. プレイリストを初めて作成する.....	42
4.8.2. プレイリストを追加する.....	42
4.8.3. プレイリストにプリセットを追加する.....	43
4.8.4. プリセットの並べ替え.....	44
4.8.5. プリセットをプレイリストから削除する.....	44
4.8.6. ソングの作成とプレイリストの管理	45
5. MAIN SYNTH PANEL	46
5.1. アーキテクチャー.....	47
5.2. 一般的な表示規則と動作.....	48
5.2.1. 設定値のポップアップ	48
5.2.2. 設定値の微調整.....	48
5.2.3. ダブルクリックでデフォルト値に.....	48

5.2.4. パラメーター名の表示	48
5.3. Oscillator Section - オシレーターセクション	49
5.3.1. Oscillator 1	49
5.3.2. Oscillator 2	50
5.3.3. Mixer	51
5.4. Filter	52
5.4.1. キーボードトラッキング	52
5.4.2. Filter Envelope	53
5.5. Amplifier Envelope	53
5.6. Modulators	54
5.6.1. POLY MOD	54
5.6.2. LFO	55
5.6.3. Wheel Mod	56
5.7. Keyboard Controls	57
5.7.1. Glide	57
5.7.2. Unison	58
5.7.3. Hold	59
5.7.4. Chord Mode	60
5.7.5. Chord Select	60
5.8. Arpeggiator	61
5.8.1. Arpeggiator Sync Options - 同期オプション	61
5.8.2. Arpeggiator Settings	62
5.9. Output Section	62
5.10. The Virtual Keyboard	63
5.10.1. Pitch and Modulation Wheels	63
5.11. Voice Dispersion	64
6. ADVANCED MODULATIONS	65
6.1. Modulations Tab	65
6.1.1. LFO 2	65
6.1.2. The Function	69
6.2. Keyboard Tab	74
6.2.1. Velocity	74
6.2.2. Aftertouch	75
6.2.3. Modulation Wheel	75
6.2.4. Keyboard	76
6.2.5. デスティネーションをアサインする	76
7. EFFECTS	77
7.1. エフェクトの接続	77
7.2. Effects タブでの共通機能	77
7.2.1. メイン On/Off ボタン	79
7.2.2. バイパスボタン	79
7.2.3. エフェクト選択メニュー	80
7.2.4. エフェクトプリセット	81
7.2.5. エフェクトのコピー	81
7.2.6. Dry/Wet スライダー	82
7.3. 各エフェクトのパラメーター	83
7.3.1. Reverb	83
7.3.2. Delay	84
7.3.3. Tape Echo	85
7.3.4. Pitch-Shift Delay	86
7.3.5. Chorus	87
7.3.6. Chorus JUN-6	88
7.3.7. Flanger	89
7.3.8. Phaser	90
7.3.9. Compressor	91
7.3.10. Multiband	92
7.3.11. Bitcrusher	93
7.3.12. Multi-Filter	94
7.3.13. Param EQ	95
7.3.14. Stereo Pan	96
7.3.15. Distortion	97
7.3.16. BL-20 Flanger	98

1. PROPHET-5 V へようこそ！

Arturia Prophet-5 V をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。Prophet-5 V は、伝説のシンセサイザー Prophet-5 Rev 2 を最新モデリング技術の TAE® (True Analog Emulation) で忠実にモデリングしたソフトウェアインストゥルメントです。往年の楽器のサウンドをデジタル的に真似るのとは大きく異なり、TAE® ではそうしたハードウェア楽器のアナログ回路や回路同士の相互作用、それらによる実際の音への影響などを解析、再構築しています。その結果、クリック1つでオリジナルの楽器と同様の「生きた」サウンドがするバーチャルインストゥルメントになります。

1.1. Prophet-5 について

Prophet-5 は、初のプログラマブル・ポリフォニックシンセサイザーです。1970年代、サンフランシスコのベイエリアで音楽と技術の才能が混ざりあった典型的なナレージ起業からスタートした Sequential Circuits 社が製造した楽器です。



Prophet-5 synthesizer, revision 2

当時、Sequential はエンジニア兼発明者の Dave Smith、前職はシンセのクリニックなどをしていた John Bowen、ビジネスパーソン of Barb Fairhurst の3人だけでした。最初に手掛けたのはアナログ式の Model 600、デジタル式の Model 800 といったシーケンサーや、Mini やARP 2600 など、音色メモリーのなかったシンセサイザーに「ちょっとした」メモリー機能を追加できる Model 700 プログラマーでした。1978年、Prophet-5 は NAMM ショー (アメリカの楽器見本市) でデビューを果たしました。

当時の *Keyboard* 誌でのインタビューで Dave Smith が「片手の指ごとに1ボイス」と語ったように、5ボイスのポリフォニック機で「5台の Mini を1台に」という触れ込みでした。

Prophet-5 の登場は、当時のミュージシャンにとってはまさに「渡りに船」というほど見事なまでに需要にマッチしたものでした。Yamaha CS-80 は1年以上前に登場していましたが、Prophet-5 は最初のポリフォニックシンセというわけではありませんでした。しかし、Prophet-5 は音色セッティングのすべてをメモリーして呼び出すことができた最初のシンセで、当時のポリフォニックシンセと比べれば遥かにコンパクトでしたのでライブでオルガンやエレピの上に乗せて演奏するという使い方もできました。さらに、その紛れもないビッグなサウンドは抗しがたい魅力があり、ポップ、ロック、そしてその後には台頭する The B-52's、Blondie、The Cars、Talking Heads 等々に代表されるニューウェーブムーブメントでの定番シンセとなりました。



Prophet-5 発売当時の雑誌広告

Prophet-5 は5ボイス構成で、各ボイスに2つの VCO とホワイトノイズがあり、ミックスしてからローパス VCF に送り込み、フィルターには専用の4ステージタイプのエンベロープジェネレーターがあります。フィルターには自己発振可能なレゾナンスもあります。フィルターの先には VCA があり、4ステージタイプのエンベロープでボイスごとの音量変化をコントロールできます。その他にはポリフォニックモジュレーション (Poly-Mod) があり、各ボイスのオシレーター B とフィルターエンベロープをモジュレーションソースとして使用し、オシレーター A の周波数やパルス幅、フィルターのカットオフフリクエンシーにモジュレーションをかけることができます。また、1基だけのグローバル動作の LFO とピンクノイズをミックスして全ボイスのオシレーターやフィルターへのモジュレーションができ、その深さはモジュレーションホイールで調節できます。

1978年から1984年までの間に約6,000台の Prophet-5 が販売され、その間に3つのバージョン (リビジョン：改良版) がありました。最初のバージョン (Rev 1) は手作業での組み立てでごく少量しか製造されていません。次のバージョン (Rev 2) では音色メモリーのデータをカセットテープに記録できる端子が追加され、3つ目のバージョン (Rev 3) では IC が Solid State Music (SSM) 製から Curtis 製のものに切り替わっています。マニアの間では Rev 1 と Rev 2 のほうが音が良いと言われています。そこで Prophet-5 V では Rev 2 のキャラクターを忠実にモデリングしました。

Dave Smith はその後も数々の功績を残していますが、特に有名なのは、今日までハードウェアやソフトウェア楽器等の通信に使われている「MIDI」の主な設計者であることでしょう。1997年に発売された市販品としては初のソフトウェアシンセサイザーである Seer Systems 「Reality」も、Dave Smith が開発したものです。また、愛用者の多かった Korg Wavestation の開発にも携わっています。2002年、Dave Smith Instruments 社を興し、デスクトップ型のハイブリッドシンセ「Evolver」でハードウェア楽器の開発に乗り出しています。2013年には、MIDI 規格の発明と音楽業界での多年にわたる功績でテクニカルグラミーアワード (グラミー技術賞) を受賞しました。そして2018年、Dave Smith は「Sequential」の商標使用权を取り戻し、新しいアナログシンセやデジタル/アナログのハイブリッド機を発表し、Rev 4 として知られている Prophet-5 の復刻も果たしました。

1.2. Arturia 秘伝のレシピ：TAE®

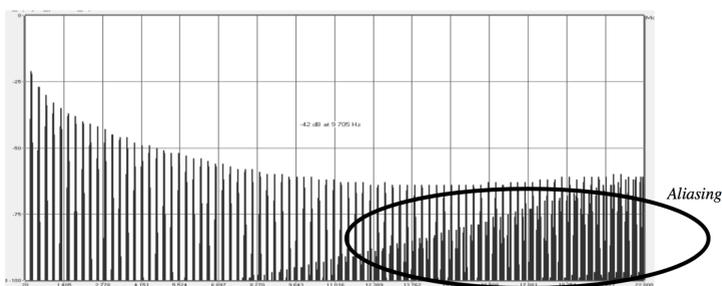
TAE® (True Analog Emulation) はビンテージシンセサイザーに使われているアナログ回路をデジタルで再現する Arturia 独自の技術です。TAE® のソフトウェアアルゴリズムではアナログハードウェアの正確なエミュレーションが可能です。Prophet-5 V のサウンドクオリティが際立って高いのは、他の Arturia パーチャルシンセサイザーと同様、この技術を使っているためです。

TAE® は音作りにおいても大きな威力を発揮します：

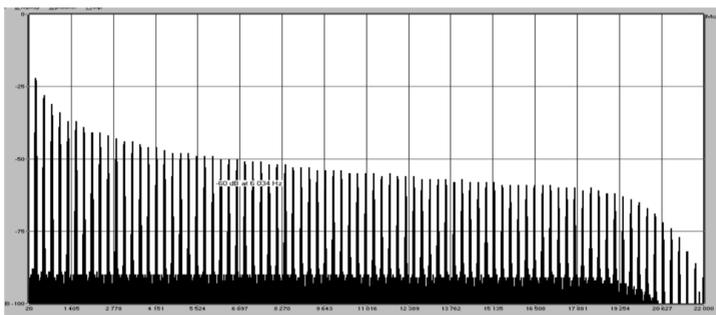
1.2.1. エリアシングフリーのオシレーター

一般的なデジタルシンセサイザーでは高周波帯域にエリアシング (折り返し) が発生し、特にパルスウィズスモジュレーション (PWM) やフリケンシーモジュレーション (FM) を使用した場合にそれが顕著になります。

TAE® ではあらゆる使用状況 (PWM や FM など) でもエリアシングが完全でないオシレーターを開発でき、しかもそれによる CPU 消費の上昇もありません。



某有名ソフトシンセのリニア周波数スペクトラム

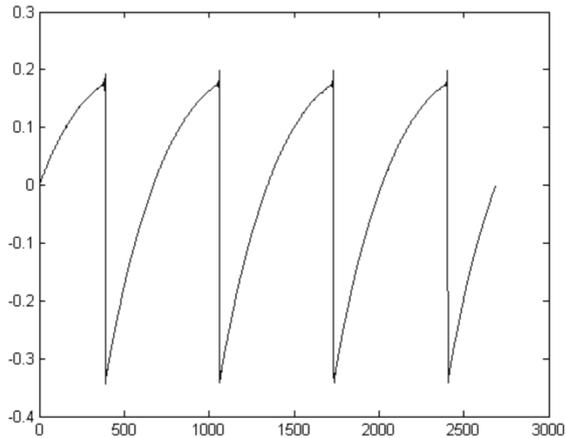


TAE®によるオシレーターモデルのリニア周波数スペクトラム

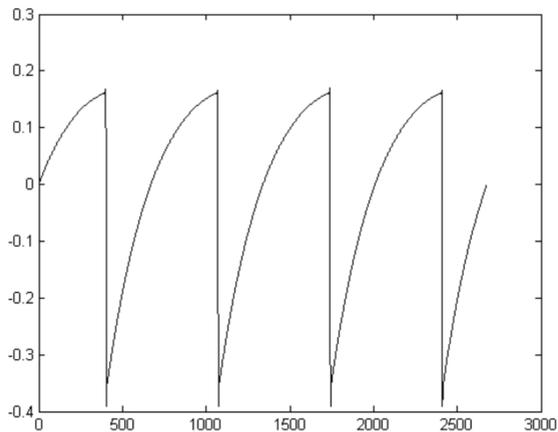
1.2.2. アナログオシレーター波形の高い再現性

アナログシンセサイザーのオシレーターの波形が作られる背景には、回路内のコンデンサが重要な役割を担っています。コンデンサの放電により、原波形 (わかりやすいところではノコギリ波、三角波、矩形波) がわずかに"曲がり"ます。TAE[®] では、そうしたコンデンサが放電した結果もソフトウェアで再現しています。

下の2つのグラフの上は Arturia がエミュレーションに使用したハードウェアシンセサイザーの波形で、右は TAE[®] で再現した波形です。ご覧の通り、ローパスとハイパスフィルタリングにより両方も同じように波形が変化しています。



わずかに歪んだハードウェアシンセサイザーのノコギリ波



TAE[®]で再現したノコギリ波

1.2.3. ボイスディスパージョン

ビンテージハードウェアのアナログオシレーターは、動作が不安定なものがよくあります。波形が周期ごとに微妙に変化していたり、トリガーを受けた時の波形のスタートポイントがその都度変わってしまうのは、温度の変化やその他の環境の状況によるものです。事実、こうした安定性での "諸問題" が、多くのシンセサイザーの音のみんな大好きな "暖かみ" となる主な要因なのです。Prophet-5 V では、ボイスディスパージョン機能を内蔵しており、ピッチやパルス幅、レベル、カットオフ、レゾナンス、エンベロープのタイム、モジュレーションのボイス間のバラつきを細かく調整することができます。

1.3. Prophet-5 V 主な特長

忠実なハードウェアのモデリングと、現代のソフトウェアならではの利便性が同居していなければ、Arturia インストゥルメントとは言えません。以下は Prophet-5 V の主な特長です。

- Prophet-5 のメインパネルの全セクションを、愛情を込めて再構築
- ノコギリ波と矩形波 (OSC 1)、OSC 2 にはそれらに加えて三角波も内蔵
- 最大16ボイスの同期発音数
- ボイスを重ねて分厚い音を作るユニゾンモード
- 独特で強烈なサウンドのオシレーターハードシンク
- アドバンストパネル (モジュレーション) にもう1つの LFO を搭載し、2つのパラメーターにアサイン可能
- ファンクションジェネレーターで自由なモジュレーション波形を作成し、2つのパラメーターにアサイン可能
- サーチ可能なプリセットブラウザにユーザー作成可能なプレイリスト機能、オリジナル Prophet-5 のファクトリープリセットを収録したバンクを内蔵
- コードをメモリーし、ワンフィンガーで演奏できるコードモード
- レトロスタイルのアルペジエーターを内蔵
- ベロシティ、アフタータッチ、モジュレーションホイール、キーボードトラッキングをそれぞれ最大3つのパラメーターにアサイン可能
- 16種類のスタジオクオリティのエフェクトを内蔵し、最大3つまで同時使用可能
- ほぼすべてのパラメーターが DAW オートメーションに対応
- LFO 周期など、タイム関係のパラメーターはテンポ同期が可能
- MPE (MIDI ポリフォニックエクスプレッション) に対応

最後に、オリジナル Prophet-5 は何よりも **プレイヤーのためのシンセ** でした。この Prophet-5 V が、あなたの演奏意欲を刺激し、音楽制作の一助になることを願っています！

2. ACTIVATION AND SETUP - アクティベーションと最初の設定

2.1. 製品登録とアクティベーション

Prophet-5 V は Windows 8.1 またはそれ以降、macOS 10.13 またはそれ以降のコンピュータで動作します。スタンドアロンモードのほか、デジタルオーディオワークステーション (DAW) ソフトウェアの Audio Units, AAX, VST2, VST3 の各形式のプラグインとしても動作します。



Prophet-5 V をインストールしましたら、次はライセンスのアクティベーションをします。この作業は Arturia Software Center というアプリケーションで簡単に行なえます。

2.1.1. Arturia Software Center (ASC)

ASC のインストールがまだでしたら、こちらから入手できます：[Arturia Downloads & Manuals](#)

Arturia Software Center はページのトップにあります。お使いのシステム (Windows または macOS) に合ったインストーラーをダウンロードしてください。

ASC のインストール後に次の作業をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します
- お持ちの Arturia アカウントでログインします
- ASC の画面を下にスクロールして My Product セクションを表示させます
- **Activate** ボタン (製品名のとなりにあります：この場合は Prophet-5 V) をクリックし、表示される指示に従って作業を進めます

これで準備完了です！

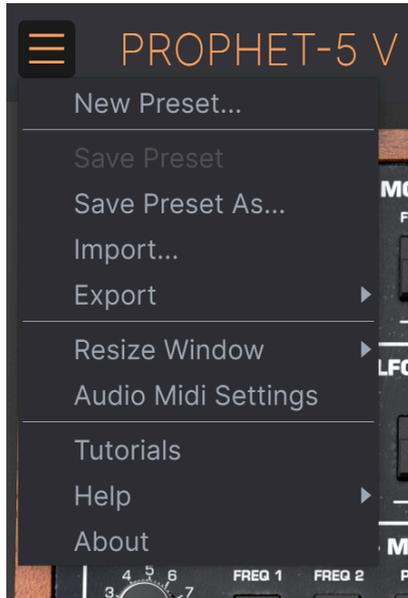
2.2. 最初の設定 (スタンドアロンモード)

Prophet-5 V をスタンドアロンモードでご使用の場合は、最初に MIDI とオーディオの設定をする必要があります。この設定は、お使いのコンピュータで MIDI コントローラーやオーディオインターフェイスを別の機種に入れ替えるなどの大きな変更をしない限り、最初の1回だけ行えば完了します。設定の手順は Windows でも macOS でもほぼ同様ですが、混同を避けるためにそれぞれのシステムでの設定手順を別々にご紹介します。

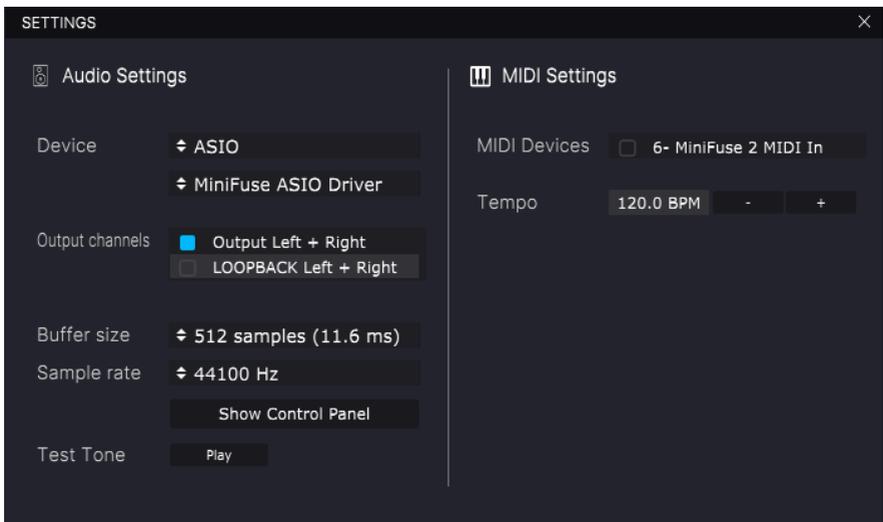
i !このセクションでは Prophet-5 V をスタンドアロンモードでご使用になる場合にのみ必要となる手順をご紹介します。プラグインでのみ使用される場合は、この設定は DAW などのホストソフトウェアが管理しますので、このセクションはお読みにならずに [Prophet-5 V をプラグインモードで使用する \[p.12\]](#) をご覧ください。

2.2.1. オーディオと MIDI の設定 : Windows

Prophet-5 V の画面最上部のツールバー (アッパーツールバー) の左側には、横3本線の "ハンバーガー" アイコンがあり、これがドロップダウンメニューになっています。ここには、色々な設定オプションが入っています。まず最初に必要なのは、**Audio Midi Settings** を選択してオーディオと MIDI の入出力を設定します。



Audio Midi Settings を選択すると、下図のような画面が開きます。この画面は Windows でも macOS でも動作は同じで、デバイス名の表示は現在接続しているハードウェアによって変わります。



画面の上から順に次のようなオプションがあります：

- **Device**：Prophet-5 V から音を出すためのオーディオドライバーを選択します。ここに表示されるドライバーは Windows Audio や、ASIO ドライバー (Mac の場合は CoreAudio) が表示されます。お使いの外付けオーディオインターフェイス名がここに表示される場合もあります。
- **Output channels**：オーディオアウトに使用するチャンネルを選択します。使用可能なアウトプットが2アウトプットのみの場合はそのアウトプットのみが表示されます。2チャンネル以上のアウトプットがある場合は任意のペアを選択できます。
- **Buffer Size**：コンピュータがオーディオの演算に使用するバッファのサイズを選択します。

1) バッファサイズが大きい場合、コンピュータが処理をする時間的間隔が長くなり、その分だけ処理回数が少なくなりますので CPU 負荷は軽くなりますが、キーボードを弾いた時に音の遅れ (レイテンシー) が気になるほど遅くなる可能性があります。バッファサイズを小さくすると、レイテンシーを低く抑えることができますが、CPU 負荷は重くなります。

最近の高速なコンピュータでしたら 256 や 128 サンプルといった低めのバッファサイズで音飛びなどが無いサウンドになります。音飛びやクリックノイズなどが発生するようでしたら、バッファサイズを大きくしてみてください。レイテンシーはバッファサイズの右側に ms (ミリ秒) 単位で表示されます。

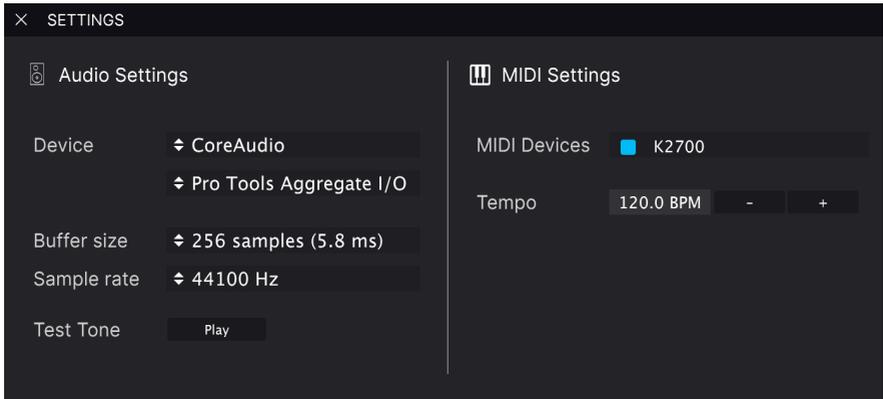
- **Sample rate**：オーディオアウトのサンプルレートを設定します。選択できるオプションはお使いのオーディオインターフェイスの仕様に準拠します。

1) ほぼすべてのオーディオハードウェアは 44.1kHz や 48kHz で動作でき、Prophet-5 V を含むほとんどの用途ではそのどちらかで十分です。それ以上のサンプルレートでは CPU 負荷が大きくなりますので、96kHz などのハイレートがどうしても必要という場合以外の通常の使用範囲では 44.1 や 48kHz での使用をお勧めします。

- **Test Tone**：オーディオのトラブルシューティングをされる際に **Play** をクリックしてテストトーンを発生してデバイス等の設定が正しいかどうかをチェックできます。この機能を使用することで、Prophet-5 V からオーディオ信号がオーディオインターフェイスに正しく送られているかどうかを音 (スピーカーやヘッドフォンなど) で確認できます。
- お使いのコンピュータに接続されているすべての MIDI デバイスが **MIDI Device** エリアに表示されます。チェックボックスをクリックして Prophet-5 V を演奏する MIDI デバイスを選択します。複数の MIDI デバイスを同時に選択して、複数のコントローラーで Prophet-5 V を演奏することもできます。
- **Tempo**：Prophet-5 V で LFO やエフェクト、アルペジエーターなどの同期に使用するテンポを設定します。Prophet-5 V を DAW のプラグインとしてご使用の場合、DAW で設定したテンポに同期します。

2.2.2. オーディオと MIDI の設定 : macOS

macOS でのオーディオと MIDI デバイスの設定メニューは Windows 版と同じ手順でアクセスでき、設定手順もほぼ同様です。すべての設定オプションは上記の Windows 版での説明と同様に動作します。唯一の違いは、外付けオーディオインターフェイスを含むすべての macOS デバイスではオーディオのルーティングに CoreAudio ドライバーを使用し、オーディオデバイスの選択は **Device** の下の 2 つ目のドロップダウンメニューで行います。



2.2.3. Using Prophet-5 V in Plug-In Mode - プラグインモードで使用する

Prophet-5 V は、Ableton Live, Cubase, Logic, Pro Tools, Studio One など主要な DAW ソフトウェアの VST2, VST3, Audio Unit (AU), AAX プラグインとして動作します。Prophet-5 V を DAW のプラグインとしてロードした場合も、ユーザーインターフェイスや各種設定はスタンドアローンモード時と同様ですが、次のような違いがいくつかあります：

- Prophet-5 V のテンポ関係の機能が DAW のテンポ/BPM に同期します。
- DAW のオートメーション機能が様々なパラメーターをコントロールできます。
- 1つの DAW プロジェクト内で複数の Prophet-5 V を同時に使用できます (スタンドアローンモードの場合は一度に1つのみ使用できます)。
- Prophet-5 V のオーディオ出力を DAW 内のオーディオルーティングの好きな位置に送り、さらにクリエイティブな使用が可能です。

これで Prophet-5 V が使用できる状態になりましたので、あとは演奏するのみです！

3. THE USER INTERFACE

このチャプターでは、Prophet-5 V の何がどこにあるのかや、その使い方など、ユーザーインターフェイスの概略をご紹介します。メインシンセパネルの各パラメーターの詳細につきましては、[チャプター5 - Main Synth Panel \[p.46\]](#) でをご紹介します。

3.1. パネル概要



Prophet-5 V のパネルは、4つのセクションに分かれており、そのうちの3つは上図に番号を振ってあります。

1. **アップパーツールバー [p.14]** : ここにはセーブやロード、プリセットのブラウジングなどの機能や、各種設定の変更、パラメーターの設定などの機能、[プリセットブラウザ \[p.29\]](#)、アドバンストパネルへのアクセスがあります。
2. **メインシンセパネル [p.46]** : Prophet-5 V を使用するにあたり、もっともよく使う画面がこのメインパネルでしょう。オリジナル Prophet-5 のフロントパネルを詳細に再現しています。このパネルの詳細につきましては、[メインシンセパネル \[p.46\]](#)のチャプターをご紹介します。
3. **ローツールバー [p.18]** : ここには Polyphony 設定やアンドウ/リドウとその履歴、CPU メーター (MIDI パニックボタンも兼ねています)、発音数設定、アンドウ/リドウとエディット履歴、マクロノブといった便利な機能があります。また、左側にはエディット中のパラメーター名が表示されます。
4. **サイドパネル [p.21]** : 普段は隠れていますが、アップパーツールバー右端にある **ギアアイコン** をクリックすると画面の右側から出てきます (そのため上図には表示されていません)。ここには MIDI や MPE の設定や、MIDI コントロールのアサイン、マクロ関連の各種設定、チュートリアルが入っています。

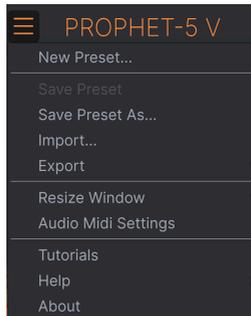
3.2. The Upper Toolbar - アッパーツールバー



Prophet-5 V の画面上端部にはツールバーがあり、そこには Prophet-5 V メニューやプリセットのブラウジング機能、アドバンスパネルやサイドパネル [p.21] へのアクセス、といった便利で重要な機能が入っています。

3.2.1. Main Menu - メインメニュー

画面左上コーナー部分にある Prophet-5 V ログをクリックすると、プルダウンメニューが開いて以下のような重要な機能が表示されます。



- **New Preset** : すべてのパラメーターがデフォルト設定のプリセットを新規作成し、そこからオリジナルサウンドを作ることができます。
- **Save Preset** : 選択したプリセットをエディットし、その内容をプリセットに上書きする際に使用します。このコマンドはファクトリープリセットには使用できません。ファクトリープリセットをエディットするには、最初に "Save Preset As" を使用してください。
- **Save Preset As** : プリセットを別名でセーブする際に使用します。このオプションをクリックするとセーブ画面が開き、そこで新しくプリセット名や各種情報を入力できます。



♪ プリセットの情報にはプリセット名だけでなく、そのプリセットに関する各種情報を入力できます。例えば、プリセットの作者名や Type、Style、Characteristics といった音色の特徴を表すタグも設定できます。これらの各種情報を [プリセットブラウザー \[p.29\]](#) が参照し、プリセットのサーチに活用されます。また、Comments フィールドにはそのプリセットに関するコメントを自由に書き込むことができ、そのプリセットの詳細情報を残しておくのに便利です。

- **Import** : プリセットファイル (拡張子: .pro5x) をインポート (読み込み) するときに使用します。プリセット1個のみ、または1バンク分のプリセットのいずれかを選択できます。
- **Export** : プリセットのエクスポート (ファイル書き出し) には、プリセット1個のみと1バンク分の2タイプがあります：
 - **Export Preset** : プリセット1個のみをファイルとして書き出す際に使用し、他の Prophet-5 V ユーザーとプリセット1個のみをシェアする場合などに便利です。書き出しの際、セーブ画面にはデフォルト設定のファイルのセーブ先が表示されますが、これは自由に変更できます。書き出したファイルは、Import メニューのオプションを使用してロードできます。
 - **Export Bank** : 1バンク分のプリセットをまとめてファイルとして書き出し、プリセットのバックアップや複数のプリセットをシェアする場合に便利です。書き出したファイルは、Import メニューのオプションを使用してロードできます。
- **Resize Window** : Prophet-5 V の画面は 50%~200% の範囲で画質が変わることなくリサイズできます。ラップトップなどスクリーンが小さめの場合は画面を縮小して Prophet-5 V だけでスクリーンを占拠させないようにすることもできます。大型スクリーンやセカンドモニターでご利用の場合は、拡大表示の見やすい状態で操作できます。

♪ 画面サイズの変更は、キーボードショートカット (Windows: Ctrl & +/-, macOS: Cmd & +/-) でも行えます。なお一部の DAW ではこれと同じキーコマンドを DAW の画面ズームに採用しているものもあり、その場合は DAW での動作が優先されますのでご注意ください。

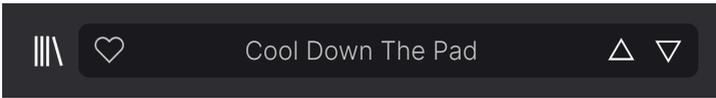
- **Audio Settings (スタンドアローンモードのみ)** : ここでは Prophet-5 V のオーディオ出力や MIDI の受信設定を行います。詳しくは [チャプター2 \[p.9\]](#) をご覧ください。

♪ プラグインモード時にはオーディオや MIDI、バッファサイズ等の設定は DAW などのホストアプリケーションが管理します。

- **Tutorials** : Prophet-5 V には各機能を紹介するインタラクティブなチュートリアルが入っています。チュートリアルの1つを選ぶと Prophet-5 V の操作方法を順を追ってご紹介するチュートリアルが表示されます。
- **Help** : Prophet-5 V マニュアルや Arturia ウェブサイトの FAQ (よくある質問) へのリンクが表示されます。ヘルプをご使用の際はインターネット接続が必要となります。
- **About** : クリックすると Prophet-5 V の開発者リストが表示されます。表示されたリスト (または Prophet-5 V 画面の任意の位置) をクリックするとリストが閉じます。

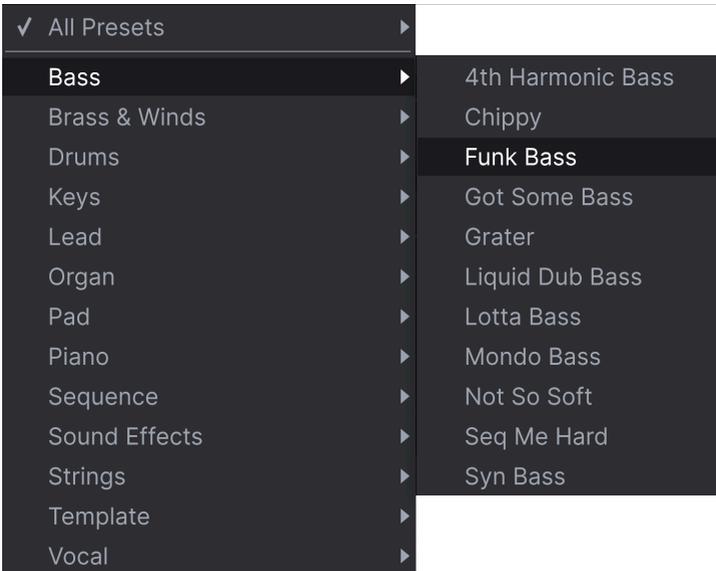
3.2.2. プリセットツールバーエリア

Prophet-5 V には便利なサウンドのファクトリープリセットが豊富に入っていますし、ご自身でもオリジナルプリセットを数多く作られることでしょう。豊富なプリセットからのサーチに役立つのが、パワフルで便利な機能を数多く搭載し、プリセットのフィルタリングやサーチに便利なプリセットブラウザで、その詳細は別チャプター [p.29]でご紹介します。ここでは、アッパーツールバーにあるプリセットブラウザの機能に絞ってご紹介します。



アッパーツールバー (上図) からアクセスできる機能には、次のようなものがあります：

1. **プリセットブラウザボタン** (本棚の本のようなアイコン：|||)：このボタンをクリックするとプリセットブラウザが開きます。
2. **プリセット名**：プリセット名をクリックするとプルダウンメニューが開き、その中に表示されているプリセット名をクリックするとそのプリセットがロードされます。メニュー以外のところをクリックするとメニューが閉じます。



3. **プリセットフィルター**：プリセット名フィールドをクリックするとプリセットフィルターが開きます。*All Presets* を選択すると、現在選択しているバンクの全プリセットがリスト表示されます。その下以降では特定の Type からプリセットを選択できます (上図ではベースの Type を選択した状態になっていません)。

 ここで「Type」と表記しているのは、Type がプリセットブラウザで使用する音色カテゴリーを示すタグだからです。

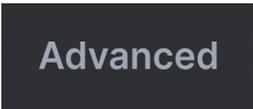
4. **矢印アイコン** (△、▽)：フィルタリングされたプリセットリスト内でプリセットを1つずつ前後に切り替えます。これは、プリセット名をクリックしてメニューからプリセットを選択するのと同じことですが、この方法ならワンクリックで行えます。

 この矢印アイコンは MIDI マッピングができますので、MIDI コントローラーにこの機能をマッピングすれば、マウスを使わずにプリセットを1つずつ選択できます。

 矢印アイコンで切り替えられるプリセットの範囲は、[プリセットブラウザ \[p.29\]](#)に入力したサーチ条件でさらに絞り込むことができます。

3.2.3. アドバンストパネルボタン

Prophet-5 V はオリジナル Prophet-5 を忠実にエミュレートしていますが、それだけではありません。より発展的なモジュレーションソースやモジュレーションルーティングの設定や、16種類のスタジオクオリティのエフェクトから3種類を選択して同時使用できるエフェクトスロットも内蔵しています。これらの追加機能が入っているアドバンストパネルには、**Advanced** ボタンをクリックして入ります。



Advanced

これらの追加機能の詳細につきましては、[アドバンストモジュレーション \[p.65\]](#)、[エフェクト \[p.77\]](#)のチャプターでご紹介します。

3.2.4. ギアのアイコン



アッパーツールバーの右端には **ギアのアイコン** があり、これをクリックすると画面右側から次の4つのタブが入ったサイドパネルが開きます：

- **Settings**：MIDI 受信チャンネルやエンベローブモード、MPE 関連の設定。
- **MIDI**：外部コントローラー使用時のMIDI ラーン機能。
- **Macro**：1つのノブで複数のパラメーターを割り当て、一斉に変化させることができる4つのマクロノブの設定を行います。
- **Tutorials**：アプリ内のインタラクティブなチュートリアルです。メインメニューからもアクセスできます。

各タブの機能につきましては、後述の[サイドパネル \[p.21\]](#)でご紹介します。

3.3. The Lower Toolbar - ロワーツールバー

Prophet-5 V の画面下部にはロワーツールバーがあり、重要で便利な機能がいくつか入っています。

3.3.1. Left Side - ロワーツールバー左側

Filter Envelope Modulation: Defines how much the envelope modulates the VCF cutoff

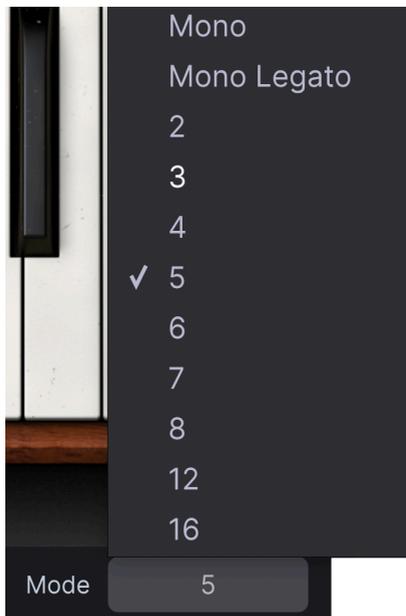
エディット中やマウスオーバーしたパラメーター名とその機能を簡単に説明する文章が表示されます。

3.3.2. Right Side - ロワーツールバー右側



右側には便利な機能がいくつか入っています。

3.3.2.1. Polyphony

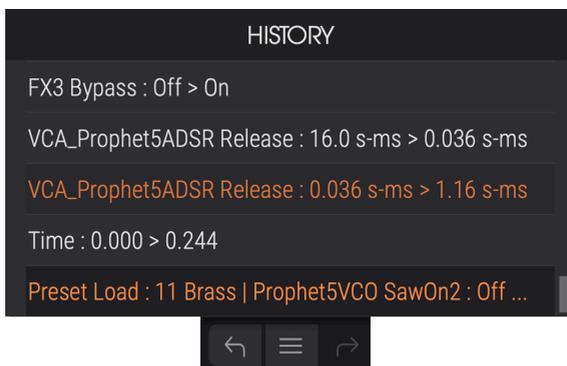


Prophet-5 V の最大同時発音数を設定します。設定値を低くすると CPU 負荷が軽くなります。仕様上の最大同時発音数は、オリジナル Prophet-5 を大きく超える16ボイスです。

 メインシンセパネルで [Unison \[p.58\]](#) を使用している場合、このメニューの表示は2~8に変わります。この数値は、ユニゾンで使用するボイス数です。

3.3.2.2. エディット履歴

Prophet-5 V はプリセットをエディットした履歴を記録しています。これにより「パンくずリスト」をたどるように、エディットのある時点へいつでも戻ることができ、安心して音作りができます。



- ・ **アンドゥ (左矢印)** : 直近のエディットを取り消してその前の状態に戻ります。
- ・ **リドゥ (右矢印)** : 直近のエディットを再実行します。
- ・ **アンドゥ履歴 (センターのメニューアイコン)** : ここをクリックすると最近のエディット履歴がリスト表示されます。リストの項目をクリックするとその時点のエディット状態を再現します。

CPU メーターとパニックボタン

Prophet-5VのCPU消費量を表示します。CPUメーターをクリックするとMIDIオールノートオフとMIDIオールサウンドオフ・メッセージをProphet-5Vに送信して発音中のノートデータを強制的に停止させ、MIDIコントロールチェンジの値をリセットします。何らかの問題が発生して音が止まらなくなりましたときなどにご使用ください。

3.3.2.3. Macro Knobs - マクロノブ



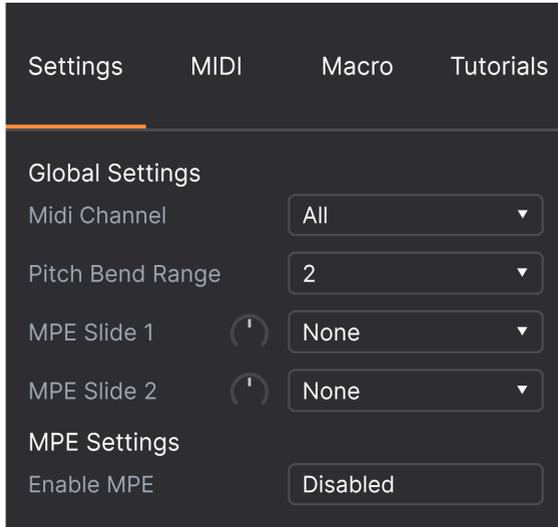
この4つのノブそれぞれには複数のパラメーターをアサインでき、それらを一斉に変化させることができます。パラメーターのアサインなどの設定は、[サイドパネル \[p.21\]](#)のMacroタブで行います。

3.4. The Side Panel - サイドパネル

アッパーツールバー右端にある **ギアのアイコン** をクリックすると **サイドパネル** が開き、そこには便利な各種機能が4つのタブに分かれて入っています。各タブを左から順に見ていきましょう：

3.4.1. Settings Tab

このタブではグローバルとプリセットの設定を行います。グローバル設定はすべてのプリセットに同時に適用される設定を指し、プリセット設定はプリセットごとにセーブできる設定です。

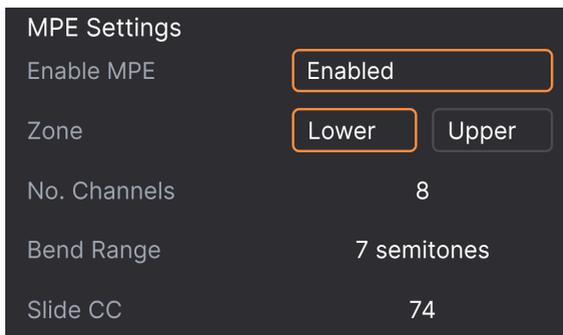


- **MIDI Channel** : Prophet-5 V が受信する MIDI チャンネルを選択します。1~16の特定のチャンネルに設定することもできますし、"All" にセットすればオムニモード (全チャンネル受信) になります。
- **Pitch Bend Range** : 画面上のピッチバンドホイールと、それにマッピングされたコントローラーで操作するピッチバンド量を設定します。
- **MPE Slide 1 / MPE Slide 2** : フィールド部分をクリックするとポップアップメニューが開き、そのモジュレーションデスティネーションで MPE 「スライド」 メッセージを受信するかどうかを選択し、その感度 (プラス変化/マイナス変化) をフィールドの左にあるノブで設定します。

MPE Slide Dest 1	Filter Res
None	✓ Filter Env Amount
Lfo1 Rate	Filter Attack
PM Filt. Env Amt	Filter Decay
PM Osc 2 Amt	Filter Sustain
WM Source Mix	Filter Release
Glide Time	Amplifier Attack
Unison Detune	Amplifier Decay
Arp Rate	Amplifier Sustain
Arp Gate	Amplifier Release
Osc 1+2 Frequency	Lfo2 Rate
Osc 1+2 Pulse Width	Lfo2 Amp
Osc 1 Frequency	Lfo2 Phase
Osc 1 Pulse Width	Function Rate
Osc 2 Frequency	Function Amp
Osc 2 Pulse Width	Effects FX1 Dry/Wet
Osc 2 Fine	Effects FX1 Param
Osc 1 Level	Effects FX2 Dry/Wet
Osc 2 Level	Effects FX2 Param
Noise Level	Effects FX3 Dry/Wet
Filter Cutoff	Effects FX3 Param

- **MPE Enable/Disable** : MPE のオン/オフを切り替えます。

MPE [p.22] が *Enable* の場合、次のような詳細設定が表示されます :



- **Zone** : MPE を使用する鍵盤上のゾーンをアッパーまたはロワーから選択します。
- **No. Channels** : 使用 MIDI チャンネルの数を設定します (MPE ではグローバルな MIDI メッセージはマスターチャンネルを使用し、各ボイスのコントロールにはボイスごとに別のチャンネルを使用します)。
- **Bend Range** : MPE グライド (X 軸) によるピッチベンドレンジを設定します。
- **Slide CC** : MPE スライド (Y 軸) をどの MIDI CC で送信するかを設定します。

3.4.1.1. What Is MPE? - MPE とは ?

上記の設定メニューは MPE に馴染みのない方には見慣れないものだったかと思いますが。MPE (MIDI ポリフォニック・エクスペッション) は MIDI 規格に比較的最近採択された機能で、複数の MIDI チャンネルを使用してアフタータッチのような指の動きをポリフォニックかつ多元軸で表現に利用できる最近のコントローラーからのデータ出力に対応するためのものです。そのようなコントローラーには、Haken Continuum、ROLI Seaboard シリーズ、Keith McMillen Instruments KBoard Pro 49 などがあります。

そうしたコントローラーではアフタータッチに加えて、X(左右軸の動き：Glideと呼ぶこともあります)、Y(前後軸の動き：Slideとも呼ばれます)などの情報を送信できます。Prophet-5 VのMPEモードではGlideに対してはピッチベンド、Slideに対しては上述のように2つのパラメーターをアサインすることができます。

3.4.2. MIDI Tab

ここがProphet-5 VをMIDIランモードにする場所です。MIDIランモードに入ると、ハードウェアパネルのMIDIアサイン可能なすべてのパラメーターがハイライト表示になり、MIDIコントローラーのノブ等にマッピングできます。よくある例としては、エクスプレッションペダルにマスターボリュームをマッピングしたり、MIDIコントローラーのノブにフィルターのカットオフフリケンシーをマッピングするといったものがあります。

Settings MIDI Macro Tutorials

MIDI Controller: Generic MIDI Co... ▾

MIDI Config: User1* ▾

Learn

Ch	CC	Control	Min	Max
1	16	Prophet5VCO Os...	0.00	10.0
1	17	Prophet5VCO No...	0.00	10.0
1	18	Prophet5VCF En...	0.00	10.0
1	19	Prophet5VCO Os...	0.00	10.0
1	71	Prophet5VCF Res	0.00	10.0
1	72	VCF_Prophet5AD...	0.004s-	82.0s-ms
1	73	VCF_Prophet5AD...	0.001s-	35.1s-ms
1	12	Prophet5VCF Freq	6.90Hz	6214Hz
1	75	VCF_Prophet5AD...	0.005s-	80.0s-ms
1	76	Prophet5Lfo Rat...	0.015Hz	30.0Hz
1	77	Prophet5Lfo Sou...	0.00	1.00
1	79	VCF_Prophet5AD...	0.00	1.00

3.4.2.1. アサインの設定と解除

MIDI タブの **Learn** ボタンをクリックすると Prophet-5 V がラーンモードに入ります。この時、MIDI アサイン可能なコントロール類の表示色がパープルになります。すでにアサイン済みのものは赤く表示されます (アサイン済みのものも変更できます)。



パープルのパラメーターをクリックすると、その名称がリストに表示されます。次に、お使いの MIDI コントローラーのノブ等を操作します。すると選択したパラメーターの表示色がパープルから赤になり、アサインされた MIDI CC ナンバーがリストのパラメーター名の左に表示されます。

MIDI アサインを解除するには、アサイン済みのパラメーターを Ctrl-クリックまたは右クリックします。また、後述の [MIDI パラメーターメニュー \[p.25\]](#) でアサインを解除することもできます。

3.4.2.2. 最小値と最大値の設定

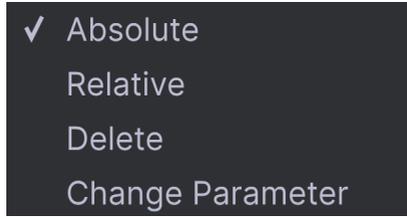
リスト内の各パラメーターには **Min** と **Max** の値を設定するコラムがあり、フィジカルコントローラーでの操作に対して Prophet-5 V のパラメーター値が変化する範囲を設定できます。例えば、ライブ演奏時にフィルターにアサインしたノブを誤って最大や最小にしてしまったときでも、Prophet-5 V のフィルターが変化する範囲を狭くしておきたいという場合があります。

表示されている設定値を上か下にドラッグすると値を変更できます。値は 0.00% から 100% までの範囲のパーセンテージで表示されます。また、Min を Max よりも大きな値に設定することもでき、その場合は MIDI コントローラーのノブ等を上げるパラメーターの値が下がるというように、通常とは逆の方向に変化させることができます。

オンとオフのように、2ポジションだけのスイッチ的動作のパラメーターは、MIDI コントローラーのボタンにアサインするのが一般的ですが、お好みでフェーダー等の連続可変するコントロール類にアサインしてトグル動作にさせることも可能です。

3.4.2.3. MIDI Parameter Menu

リストに表示されているマッピング済みのパラメーターを Ctrl-クリックまたは右クリックすると、以下のような便利なメニューが開き、パラメーターごとに動作を設定できます。



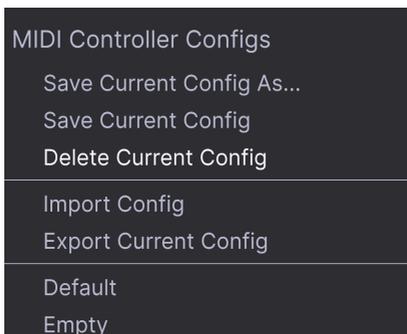
- **Absolute** : MIDI コントローラーから送信された値にアサインされたパラメーター値がそのまま追従します。
- **Relative** : MIDI コントローラーでの操作に応じて、アサインされているパラメーターがその時の値から上下に変化します。このモードは、マッピングしたコントロール類が360°回せるロータリーエンコーダーの場合に便利です。
- **Delete** : コントローラーとパラメーターのマッピングを解除し、パラメーターの表示色をパープルに戻します。
- **Change Parameter** : これを選択すると、Prophet-5 V でアサインできるパラメーターを表示する大きなサブメニューが開きます。このサブメニューで、マッピング済みの MIDI CC とパラメーターを手動で変更できます。この機能は、コントロールしたいパラメーターがすでにわかっているときに便利です。

3.4.2.4. MIDI Controller Menu



MIDI タブの最上部右にあるのは **MIDI Controller** のドロップダウンメニューで、Arturia MIDI コントローラーのテンプレートを選択できます。このテンプレートは、Prophet-5 V で "よく使われる" パラメーターと Arturia MIDI コントローラーの各コントロール類とのマッピングをしたもので、プラグアンドプレイ的にすぐにコントロールできるようになっています。また、サードパーティ製の MIDI コントローラー用の汎用テンプレートもあります。

3.4.2.5. MIDI Config Menu



MIDI Config ドロップダウンメニューは、Prophet-5 V をコントロールするための MIDI マッピングが複数ある場合、それを管理するためのメニューです。選択している MIDI アサイン設定のセーブや別名セーブ、削除、設定ファイル (コンフィギュレーションファイル) のインポートや、選択している MIDI マッピングをファイルとしてエクスポートすることも可能です。

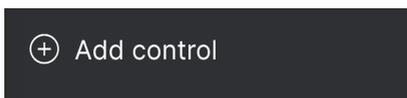
この機能は、Prophet-5 V をコントロールする MIDI キーボードやコントローラーを交換するときに新たな MIDI マッピングを最初から作り直すことなくすぐに演奏ができるようにするためのものです。

例えば、ライブ用にはコンパクトなキーボード、レコーディングでは88鍵などのマスターキーボード、パッドコントローラー等々、複数の MIDI コントローラーをお持ちの場合、各コントローラー用の MIDI マッピングを作成しておけば、ハードウェアコントローラーを切り替えるときにそれに合ったマッピングをロードするだけで準備完了です。これにより、使用するコントローラーを切り替えるたびにそれに合わせたマッピングを最初から作成する時間を節約できます。

このメニューで特に強力なオプションが次の2つです：

- **Default** : MIDI アサインがある程度最初から設定されているもので、MIDI マッピングを作成する出発点として便利です。
- **Empty** : すべてのアサインをすべて削除します。

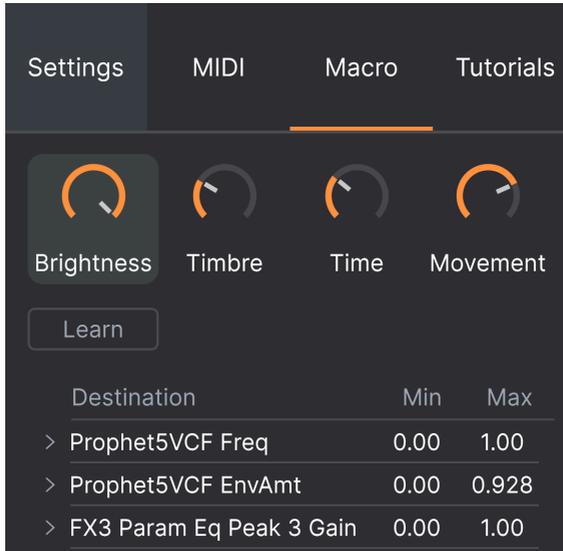
3.4.2.6. Add Control



MIDI タブの下部にある **Add Control** をクリックすると MIDI アサインが可能な Prophet-5 V のパラメーターを表示する膨大なポップアップが開きます。ポップアップをスクロールしてパラメーター名をクリックしてアサインリストに追加することができます。この方法は、アサインしたいパラメーターがすでに分かっていて (アドバンスパネルのモジュレーションやエフェクトなど)、それをパネルのグラフィックから探すのが面倒な場合に便利です。

3.4.3. Macros Tab

マクロタブでは、ロワーツールバー右側にある4つのマクロノブのアサインを管理します。1つのノブに複数のパラメーターをアサインでき、マクロノブ自体を [MIDIラーン \[p.23\]](#) でフィジカルコントローラーにアサインすることができます。



♪ マクロの設定はプリセットごとにセーブできます。

3.4.3.1. マクロスロット

設定を変更したいマクロノブをクリックして選択します。デフォルトのマクロ名はそれぞれ *Brightness*、*Timbre*、*Time*、*Movement* ですが、タブ中段のネームフィールドをクリックするとリネームできます。ここでリネームした名称はロワーツールバーにも反映されます。

3.4.3.2. マクロの作成

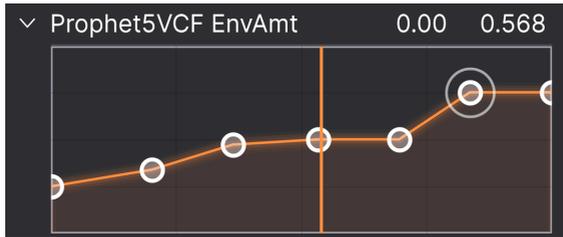
Macro タブの **Learn** ボタンをクリックすると MIDI アサインと同様の手順でアサイン可能なパラメーターはパープルの表示色になり、アサイン済みのものは赤で表示されます。パープルのパラメーターをクリックするとそのパラメーター名がリストに加わります。

マクロからパラメーターを削除するには、リストにあるパラメーター名を右クリック (Mac の場合は Ctrl クリック) し、表示されるポップアップにある **Delete** をクリックします。マクロにアサインしたパラメーターは **Min/Max** の値を設定でき、パラメーターの MIDI アサインの時と同様、Min/Max それぞれの数値をドラッグすることでパラメーター値が変化する範囲を設定できます。また、Min の値を Max よりも高くすることで Macro ノブを上げるとパラメーター値が下がるという動きに設定することもできます。

i マクロに設定すべきパラメーターやマクロの名前にルールというものはありません。関連性のないパラメーターを大量にマクロノブにアサインして好きな芸能人の名前をノブの名称にすることもできますが、実用上は比較的わかりやすい名称しておくのがベターでしょう。

3.4.3.3. マクロカーブ

単純なスケーリング以上に、マクロにアサインした各パラメーター値が最低値から最高値までの間を変化させるカーブをカスタマイズでき、マクロの動きでそれを再現することができます。リストのパラメーター名のとなりにある **>** アイコンをクリックするとカーブ画面が表示されます。



カーブの線上をクリックすると小さな円のブレイクポイントが追加されます。これをドラッグしてポイント間のカーブを作っていくことができます。ポイントを右クリック (Mac では Ctrl-クリック) するとポイントを削除できます。最初と最後のブレイクポイントは削除できません。

i シンプルな対角線にするとリニアになりますが、リニア以外のカーブにすると楽しくなる可能性があります。

3.4.4. Tutorials - チュートリアル

このチュートリアルタブは、**メインメニュー [p.14]**の **Tutorials** を選択することでも開くことができます。このタブでは各チャプターのタイトルをクリックすると Prophet-5 V の色々な機能を順を追って学ぶことができます。また、テーマにしているパネル部分がハイライト表示になります。

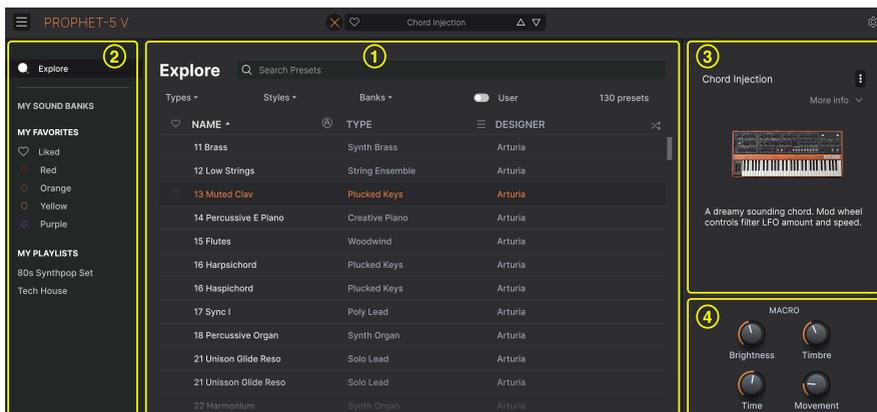
i ! プリセットをエディット中のときは、チュートリアルを開く前にセーブしておきましょう。これはチュートリアルを開くを新規プリセットロードしてエディット中の内容を上書きしてしまうためです。また、チュートリアルはサイドパネルのスペースに開きます。

4. THE PRESET BROWSER

プリセットブラウザは、Prophet-5 V のプリセットのサーチやロード、管理を行うところです。用途によって表示が色々変わりますが、参照しているものは同一のプリセットバンクです。

サーチ画面にアクセスするには、ブラウザボタン (≡) をクリックします。プリセットブラウザを閉じるには、ブラウザボタンと同じ位置に表示される X をクリックします。

プリセットブラウザには4つのメインエリアがあります：



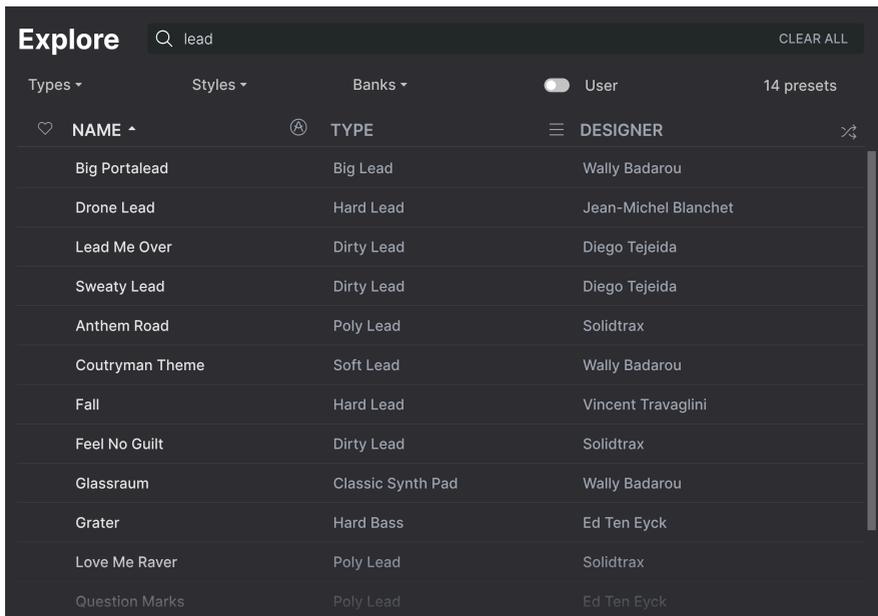
The full Preset Browser window

番号	エリア	内容
1.	Search and Results [p.30]	検索ワードや Type, Style のタグでプリセットをサーチします。
2.	Sidebar [p.35]	バンクやプレイリストの管理を行います。
3.	Preset Info [p.39]	選択したプリセットのバンクやタグ、作者名、その他の情報を表示します。
4.	Macro Knobs [p.20]	ローツールバーのマクロノブの拡大表示版です。

4.1. Search and Results - サーチ & リザルト

ブラウザ最上部のサーチフィールドをクリックして検索ワードを入力します。この時、ブラウザは2つの方法でプリセットをフィルタリングします。1つは検索ワードに一致したプリセット名、もう1つは検索ワードが **Type** や **Style** [p.31] に近い場合、そのタグを使用しているプリセットもサーチ結果に含めます。

サーチフィールドの下に検索結果が表示されます。サーチフィールドの右にある **X** をクリックすると検索ワードが消去されます。



The screenshot shows the 'Explore' section of a software interface. At the top, there is a search bar with the text 'lead' and a 'CLEAR ALL' button. Below the search bar, there are several filter options: 'Types', 'Styles', 'Banks', a toggle for 'User', and '14 presets'. The main area displays a table of search results with columns for 'NAME', 'TYPE', and 'DESIGNER'. The results are as follows:

NAME	TYPE	DESIGNER
Big Portalead	Big Lead	Wally Badarou
Drone Lead	Hard Lead	Jean-Michel Blanchet
Lead Me Over	Dirty Lead	Diego Tejeida
Sweaty Lead	Dirty Lead	Diego Tejeida
Anthem Road	Poly Lead	Solidtrax
Coutryman Theme	Soft Lead	Wally Badarou
Fall	Hard Lead	Vincent Travaglini
Feel No Guilt	Dirty Lead	Solidtrax
Glassraum	Classic Synth Pad	Wally Badarou
Grater	Hard Bass	Ed Ten Eyck
Love Me Raver	Poly Lead	Solidtrax
Question Marks	Poly Lead	Ed Ten Eyck

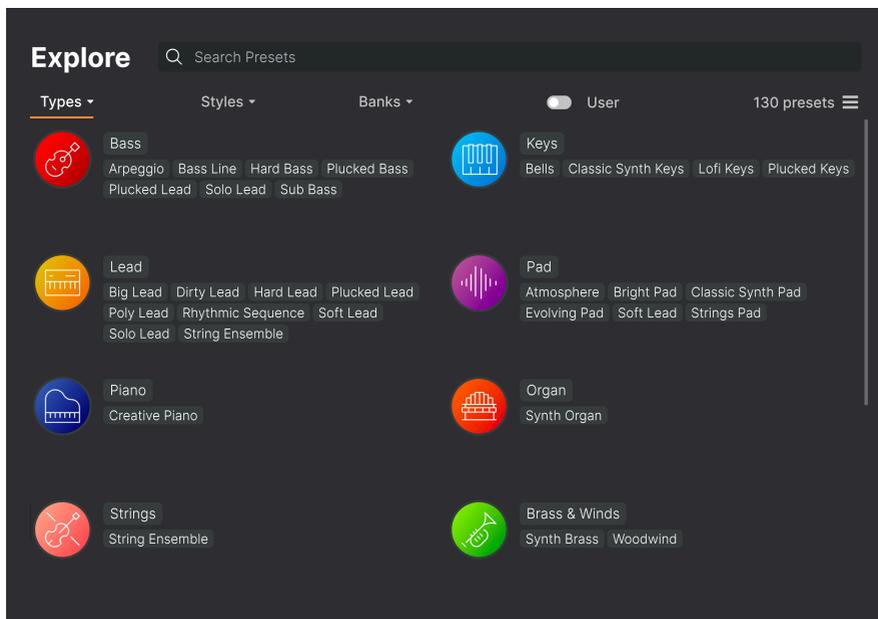
検索ワードでフィルタリング

4.2. Using Tags as a Filter - タグでフィルタリング

色々なタグを使うことで絞り込み検索ができます (場合によっては逆に広がることもあります)。タグには *Type* と *Style* の2種類があります。どちらか一方だけでなく、両方を使って絞り込むこともできます。

4.2.1. Types

Types はベースやリード、ストリングス、パッド、オルガンなど、楽器別や用途別のカテゴリーです。検索バーに検索ワードを入れていない状態で、**Types** ボタンをクリックすると Types のリストが表示されます。各 Type にはサブタイプがあるものもあります：



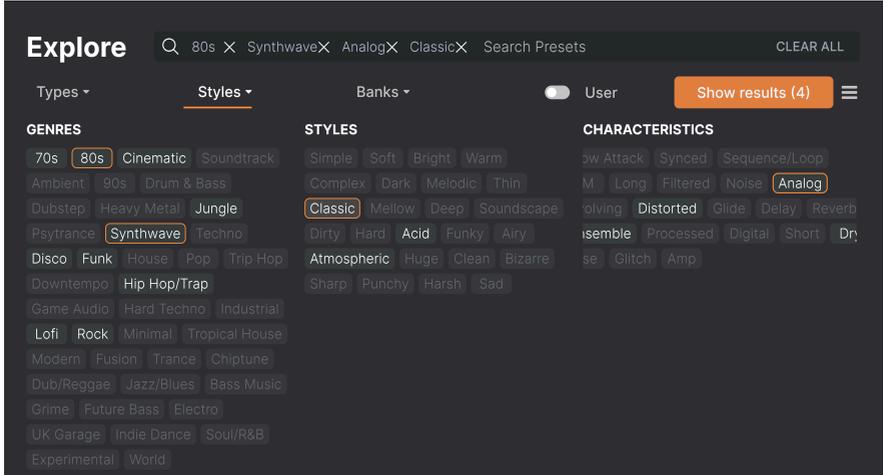
Type のいずれかをクリックするとそのタグに合致したプリセットが表示されます。複数のタイプを選択するときは、Cmd-クリック (macOS) か Ctrl-クリック (Windows) します。例えば、探したいプリセットのタグが Keys なのか Pad なのか覚えていないときは、両方のタグを選択して検索対象を広げることができます。

リザルトコラム最上部の各タイトル (Name, Type, Designer) の右にある矢印ボタンをクリックするとリストを逆順に並べ替えることができます。

4.2.2. Styles

Styles は Types よりも具体的な音楽的属性のタグですので検索の精度をより高めることができます。Styles ボタンをクリックすると、このエリアには次のサブディビジョンが表示されます：

- Genres : Trance, Techno, Synthwave, Disco など、音楽ジャンルや時代を表すタグ
- Styles : Dirty, Clean, Complex, Mellow など、一般的な雰囲気を表すタグ
- Characteristics : Analog, Evolving, Distorted, Dry, Rise など、音色の特徴を表すタグ



タグをクリックするとそれが選択されます。もう一度クリックするか右クリックをすると選択が解除されます。タグを選択するといくつかのタグが選択できない状態になることがあります。これは、ブラウザが消去法で検索結果を絞り込んでいるためです。選択しているタグのいくつかの選択を解除すると、そのタグがサーチ対象から外れて、最初からすべてをやり直すことなくサーチ対象を広げることができます。

4.2.3. Banks

Types、Styles の次にあるボタンが Banks ボタンです。前者2つによるサーチ対象をこのボタンでファクトリーバンクかユーザーバンクに限定することができます。

4.3. サーチ結果表示

サーチ結果のリストが表示されないときは、**Show Results** ボタンをクリックします。リストのいずれかの
の列最上部の矢印ボタンをクリックすると ABC 順のリストが逆順に切り替わります。

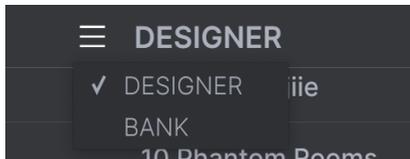
4.3.1. リストの並び替え

サーチ結果リストの左側の列の **NAME** ヘッダをクリックすると、リストがプリセット名の ABC 順か
その逆順に並びます。

2つ目の列の **TYPE** ヘッダをクリックすると、タイプの ABC 順かその逆順でリストが並び替わりま
す。

TYPE の左にある **Arturia ロゴ** をクリックすると、ファクトリーの"おすすめ"プリセットがリストのトッ
プに表示されます。このプリセットは [Liked \[p.34\]](#) (いいね) をしたプリセットのすぐ下に表示されます。

3つ目の列のヘッダは **DESIGNER** と **BANK** の2つがあり、横3本線のアイコンをクリックしてどちら
かを選択します。選択後、ヘッダをクリックすると他の2つの列と同様、ABC 順に並び替えることが
できます。

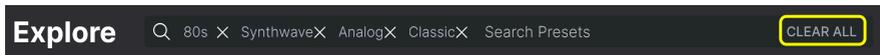


♥ をクリックすると "いいね" をつけたプリセットがリスト表示されます。

2つの交差した矢印ボタンをクリックするとリストの並び順がランダム化します。

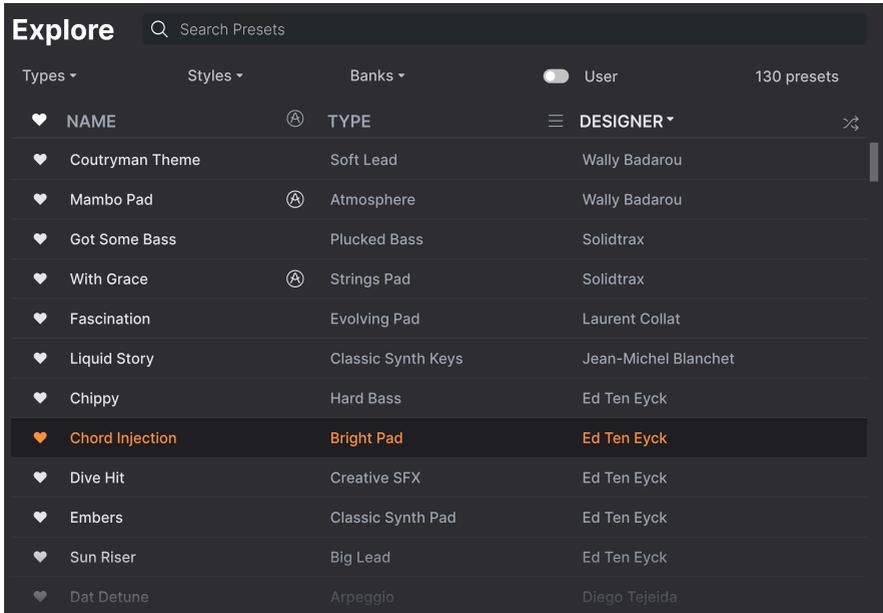
4.3.2. タグを外す

Types, Styles, Banks ボタンのすぐ下には、サーチに使用したすべてのタグが表示されます。各タグ名の
右にある X をクリックするとそのタグが外れます (その結果サーチ対象が広がります)。**CLEAR ALL** をク
リックするとすべてのタグが一斉に外れます。



4.3.3. Liking Presets - "いいね"をつける

プリセットを色々チェックしたり作成しているときに、プリセットの横にある **ハート** をクリックして気に入ったプリセットにマークを付けておくことができます。その後、ハートのアイコンをクリックすると、すべての "いいね" を付けたお気に入りのプリセットがサーチ結果リストのトップに表示されます。

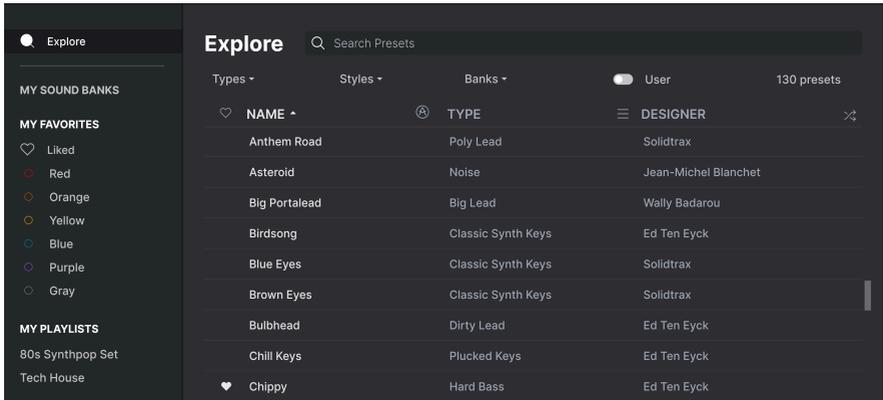


並べ替えやフィルタリング機能を必要に応じて使うことで、欲しいサウンドをいつでもすぐに見つけ出すことができます。

4.4. Sidebar - サイドバー

プリセットブラウザの左側のセクションでは、[Search and Results \[p.30\]](#) セクションに何を表示するのかが設定します。

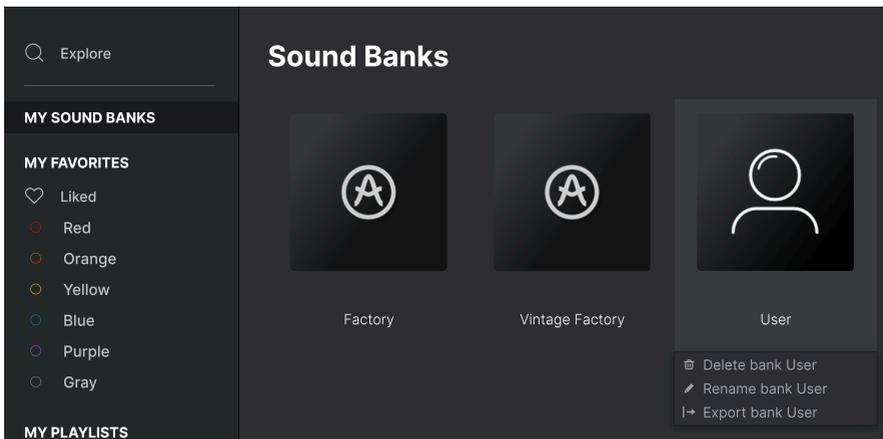
最上部のオプションはこれです：



Explore セクションがデフォルト設定で、上述のセクションで行ったのと同じように Prophet-5 V にロードされているプリセットの現在のバンクを色々見て回ることができます。

4.4.1. My Sound Banks

My Sound Banks をクリックすると、ファクトリーバンクに続き、使用可能なサウンドバンクの一覧を表示するウィンドウが開きます。その後続くユーザーバンクは、右クリックすることで削除やリネーム、エクスポート(ファイル書き出し)が行えます。



旧バージョンのプリセットブラウザの "My Library" には以下のオプションがありました。これらは Prophet-5 V から削除されたのでしょうか？

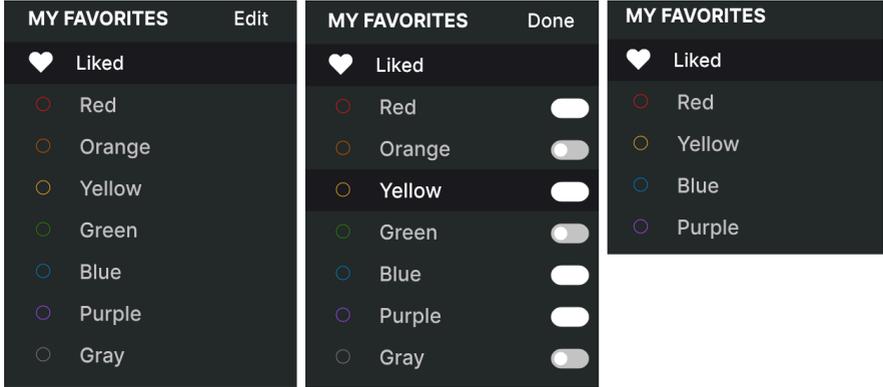
(My Library) は、現在使用可能な Prophet-5 V のプリセットやバンクの中から次の便利なオプションを使って選択できます。

- **Recently played** : 直近で使用したプリセットで、最初に表示されます。つい先日思いっきり楽しんだプリセット名を思い出せないときに便利です。
- **Liked** : ハートアイコンで "いいね" をつけたプリセットです。サーチ結果のリスト画面でプリセット名の左にマウスオーバーすると、ハートアイコンが表示されます。
- **Saved Presets** : [メインメニュー \[p.14\]](#) の Save または Save As コマンドでセーブしたプリセットです。
- **My banks** : インポートしたり、作成したバンクです。

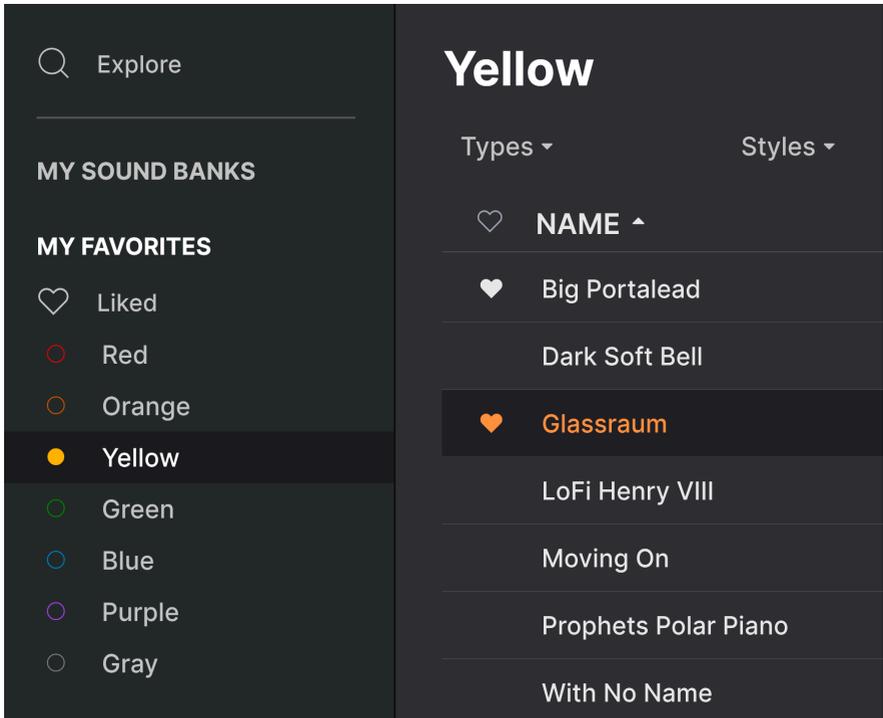
4.4.2. My Favorites

サイドバーの中段には **My Favorites** というメニューがあり、プリセットを選びやすいようにカラーコードで分類することができます。またここでは "いいね" のグループもあり、ハートアイコンをつけたプリセットをすぐに見つけ出すことができます。

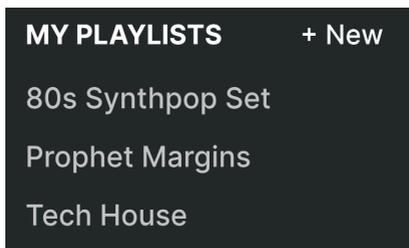
表示するカラーコードを選択するには、**My Favorites** にマウスオーバーして **Edit** をクリックします。次にカラーごとに表示/非表示を選択し、**Done** をクリックします。



プリセットをフェイスリット (カラーコード) に追加するには、プリセットをそのカラーにドラッグ&ドロップします。カラーコードをクリックすると、そのグループの内容が表示されます。



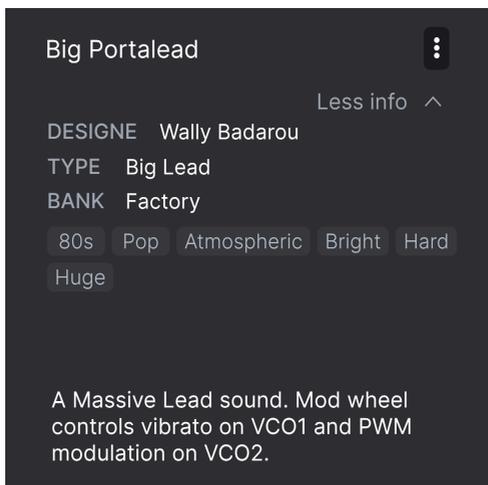
4.4.3. My Playlists



サイドバーの下段には、作成したりインポート (ファイル読み込み) をしたプレイリストが表示されます。プレイリストは、ライブ時のプリセット管理に非常に便利な機能です。詳細は、後述の [プレイリスト](#) [p.42] でご紹介します。

4.5. Preset Info Section - プリセットインフォ

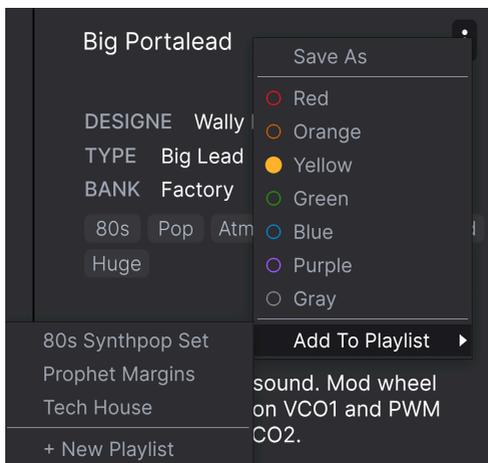
ブラウザ画面の右サイドには各プリセットの情報が表示されます。ユーザープリセットのプリセット名、タイプ、フェイバリットなどの情報はここで変更できます。ファクトリープリセットの情報は変更できません。



各種変更をするにはテキストフィールドに入力したり、プルダウンメニューで Bank や Type を選択したり、+ サインをクリックして Style の追加や削除をします。

ここで Type や Style を変更するとサーチ結果に反映されます。例えば、あるユーザープリセットから "Funky" の Style タグを削除してセーブした場合、そのプリセットは Funky のタグでサーチしてもヒットしなくなります。

画面右上のドットが縦に3つ並んだアイコンをクリックすると、選択しているプリセットの情報を管理する各種オプションが入ったメニューが表示されます。



オプションには **Save Preset**、**Save Preset As**、**Delete Preset**、**Add to Playlist** があるほか、プレイリストの新規作成もできます。罫線で囲まれた中にあるカラーアイコンのいずれかをクリックすると、現在選択しているプリセットがそのカラー (フェイバリット) グループに追加されます。

4.5.1. 複数のプリセットの情報を変更する

ライブの準備などで複数のバンクに入っているプリセットを移動させたいときや、複数のプリセットに同一のコメントを一齐に入力したいときがあるかと思いますが、簡単にできます。サーチ結果リストのプリセット名を macOS なら Cmd-クリック、Windows でしたら Ctrl-クリックで複数選択します。次にコメントを入力したり、Bank や Type などを変更して各プリセットをセーブします。

Default	Ⓐ Template	Arturia
♥ 11 Brass	Synth Brass	Arturia
♥ 12 Low Strings	String Ensemble	Arturia
13 Muted Clav	Plucked Keys	Arturia
♥ 14 Percussive E Piano	Creative Piano	Arturia
15 Flutes	Woodwind	Arturia
16 Haspichord	Plucked Keys	Arturia
♥ 17 Sync I	Poly Lead	Arturia
♥ 18 Percussive Organ	Synth Organ	Arturia

Shift+クリックで連続する複数のプリセットを選択することもできます。

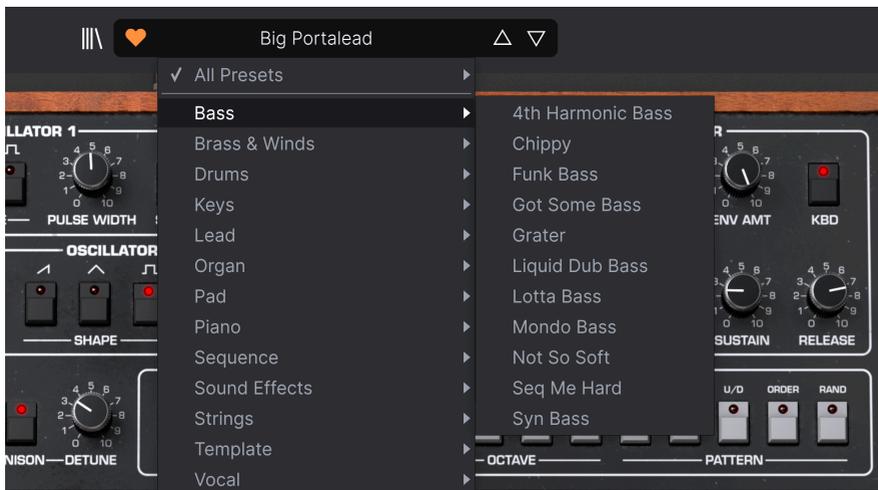
 ファクトリープリセットの情報を変更したいときは、**Save As** コマンドでユーザープリセットとしてセーブする必要があります。セーブしたプリセットを選択すると Info セクションに Edit と Delete ボタンが画面下部に表示されるようになります。

4.6. プリセットの選択：別の方法

アッパーツールバー中央部のプリセット名をクリックするとドロップダウンメニューが開きます。このメニューのトップにあるオプションは **All Presets** で、そこには現在選択しているバンク内のすべてのプリセットが選択できるサブメニューが入っています。

All Presets 以下のオプションは Type タグです。各 Type にはサブメニューがあります。

Type や Style、またはその両方でサーチをしている場合、プリセット名の右にある上下の矢印アイコンをクリックすると、サーチにヒットしているプリセットを1つずつ順番に切り替えることができ、サーチ結果をチェックできます。



一方、ドロップダウンメニューの "All Presets" は、サーチ条件の一切を無視します。その下の線以下の Type からその Type に属している全プリセットを表示すると同じように、バンク内の文字通り "全プリセット" を (サーチ条件に関係なく) 表示します。

4.7. Macro Knobs - マクロノブ

このマクロノブはローツールバーに表示されるマクロノブの拡大版です。このノブを回すとローツールバーにある同じノブも同様に回ります。



パラメーターをマクロにアサインする方法は、[Chapter 3の Macro Tab \[p.27\]](#) をご覧ください。

4.8. Playlists - プレイリスト

プレイリストは、ライブやレコーディングで使用するプリセットというように、目的別にプリセットをグループピングしておくことができる機能です。プレイリスト内では、プリセットはソングごとに並べ替えたりグループピングすることができます。

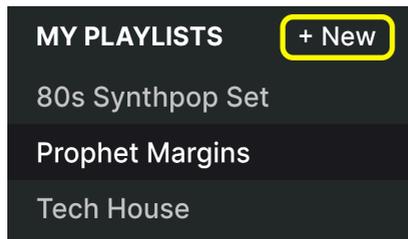
My Playlists のサブヘッダは、サイドバーの **My Favorites** セクションの下に表示されます。但し、Prophet-5 V のデフォルト状態ではまだプレイリストが作成されていないので、この表示はありません。プレイリストを作成することではじめてここに表示されます。

4.8.1. プレイリストを初めて作成する

まずは、プリセットを1つサイドバーにドラッグします。すると **My Playlists** のヘッダが **+ New** アイコンとともに表示されます。プリセットを **+ New** アイコンにドロップすると、ポップアップが開いてプレイリスト名を入力できます。プレイリストを作成すると、**My Playlists** のヘッダはサイドバーに常に表示されるようになります。

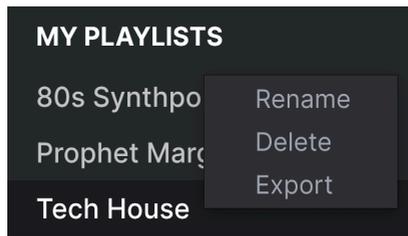
4.8.2. プレイリストを追加する

プレイリストを追加するには、**My Playlists** ヘッダにマウスオーバーし、表示される **+ New** アイコンをクリックします。



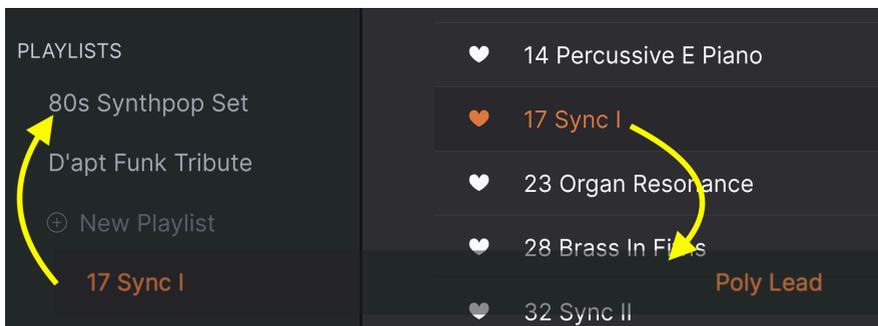
プレイリストの名前を入力すると、サイドバーの Playlists メニューにそれが表示されます。

プレイリストを作成したら、そのプレイリスト名を右クリックするとポップアップが開いて **Rename** (プレイリストのリネーム) や **Delete** (プレイリストの削除)、**Export** といったメニューが使用できます。Export は、プレイリストをファイルとして書き出すコマンドで、書き出されたファイルには .aplst の拡張子がつきます。



4.8.3. プレイリストにプリセットを追加する

Explore 画面のすべてのオプションを使用して、プレイリストに入れたいプリセットをサーチできます。目的のプリセットが見つかりましたら、それをプレイリスト名にドラッグします。

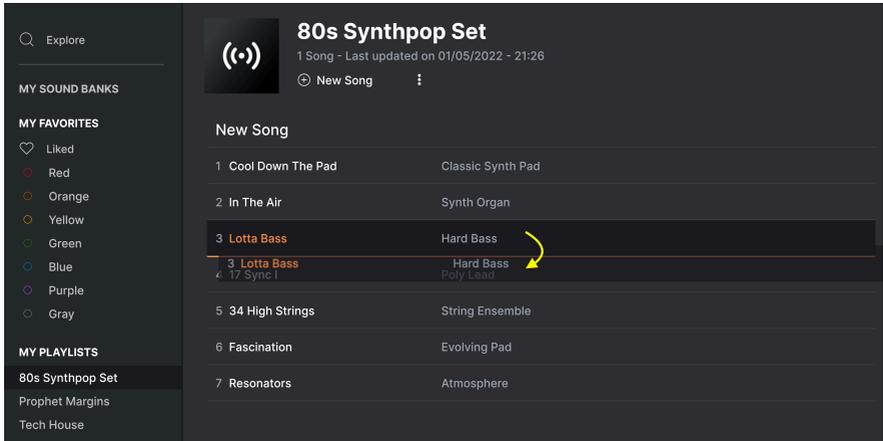


サーチ結果リストからプレイリストにドラッグ

プレイリスト名をクリックするとその内容が表示されます。

4.8.4. プリセットの並べ替え

プレイリスト内のプリセットは並べ替えができます。例えば、スロット3から4にプリセットを移動させたいときは、それを目的の位置にドラッグ&ドロップします。

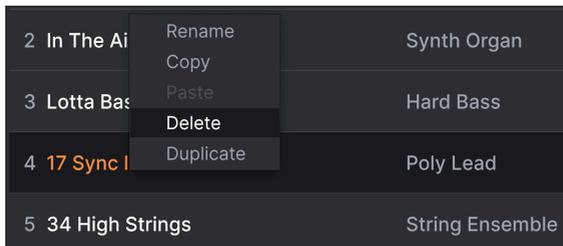


移動先の位置が白線で表示されます

プリセットを移動するとその移動に合わせて他のプリセットの位置もプレイリスト内で移動します。ドラッグ&ドロップで移動するときには、白線が移動先の "挿入ポイント" に短時間表示されます。

4.8.5. プリセットをプレイリストから削除する

プレイリストからプリセットを削除するには、そのプリセット名を右クリックしてポップアップメニューを開き、**Delete** を選択します。

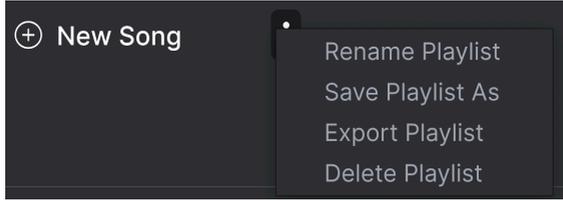


メニューには **Rename**、**Copy**、**Paste**、**Duplicate** といったオプションもあります。その他の管理オプションにつきましては、後述します。

4.8.6. ソングの作成とプレイリストの管理

New Song ボタンをクリックするとプレイリストの下部に新規ソングを作成します。新規ソングに名前をつけ、プレイリスト内の好きな位置にドラッグでき、ソング内にプリセットを好きな順番で追加できます。

プレイリストの管理オプションにアクセスするには、**New Song** ボタンの右にあるドットが縦に3つ並んだアイコンをクリックします。すると、下図のようなプルダウンメニューが開きます：



- **Rename Playlist**：現在選択しているプレイリストの名称を変更します。
- **Save Playlist As**：現在選択しているプレイリストの "コピー" を作成し、別名で保存します。保存前に名称を入力できます。
- **Export Playlist**：現在選択しているプレイリストをファイルとしてコンピュータに書き出します。書き出されたファイルには ".aplst" の拡張子が付きます。
- **Delete Playlist**：現在選択しているプレイリストを削除します。削除されたプレイリスト内のプリセット (のデータ) は *削除されません*。

5. MAIN SYNTH PANEL

ここから楽しいことが始まります：このメインシンセパネルは、Prophet-5 のパネルを再現し、さらに新機能も加わっています。



他のアナログシンセと同様、Prophet-5 も音作りの手法に サブトラクティブ シンセシス (減算合成) を採用しています。サブトラクティブシンセシスというのは、1つまたは複数の複雑な倍音構成の波形をフィルターで不要な部分を削り取るという意味では、彫刻のオーディオ版といったところでしょうか。もっともこれはモジュレーションを使うと事態はさらに面白くなりますので、定義としては極めて単純化されたものです。

このチャプターでは、シンセサイザーの基本的な知識を前提として、Prophet-5 V のパネルのすべてのエリアをご紹介します。



番号	エリア	内容
1.	Oscillator Section [p.49]	2つのオシレーターとノイズを使用できるミキサー
2.	Filter [p.52]	Prophet の VCF と専用エンベロープ
3.	Amplifier Envelope [p.53]	アンプエンベロープ
4.	Modulators [p.54]	有名な POLY-MOD などのモジュレーションソース
5.	Keyboard Controls [p.57]	グライド、ユニゾン、ホールド、コードモードなど、キーボード演奏に関連した機能
6.	Arpeggiator [p.61]	ピンチエッジスタイルのアルペジエーター (Arturia で追加した機能)
7.	Output Section [p.62]	マスターチューニングとボリュームノブ

5.1. アーキテクチャー

Prophet-5 のアーキテクチャーはシンプルなのですが幅広い音作りに対応できるようになっています。フィルターや出力段を複数のボイスで共有するパラフォニック方式とは違い、フィルターや VCA がボイスごとにあり、正真正銘のポリフォニックです。

1ボイスにつきオシレーターが2つあり (合計10個オシレーター)、オシレーター1にはノコギリ波とパルス波、その2つに加えてオシレーター2には三角波もあります。オシレーター2は LFO としても動作できますし、オシレーター1にハードシンク (2 → 1) をかけることもできます。

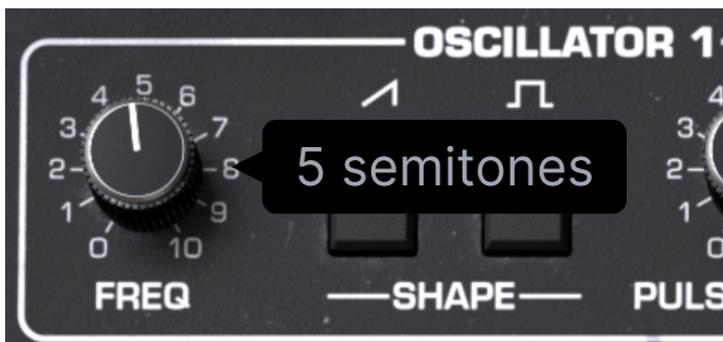
LFO をソースとしたモジュレーション機能もありますが、何と言っても小規模なモジュラー並みの「パッチが組める」POLY-MOD が Prophet-5 の大きな特徴でしょう。ここでは、フィルターエンベロープとオシレーター2からの信号をミックスして3つのデスティネーション：オシレーター1のピッチ、オシレーター1のパルス幅、フィルターのカットオフ周波数にモジュレーションをかけることができます。「POLY-MOD は Prophet-5 サウンドの要である」とマニアの間では考えられています。

以上がシングルパス (信号の流れ) の簡単な説明でした。各セクションの詳細は後ほどご紹介します。

5.2. 一般的な表示規則と動作

メインシンセパネルのすべてのコントロール類 (それと Prophet-5 V のその他のエリア) は、ミュージシャンにとって使いやすいように若干のルールに則って動作するようになっています。

5.2.1. 設定値のポップアップ



ノブを回したり、ノブにマウスオーバーすると、ポップアップ (ツールチップ) が表示され、そのノブの現在値を表示します。

5.2.2. 設定値の微調整

Ctrlキー、またはマウスの右ボタンを押しながらノブをドラッグすると、設定値の変動がゆっくりとなり、正確な値を設定しやすくなります。

5.2.3. ダブルクリックでデフォルト値に

どのパラメーターもダブルクリックするとデフォルト値に戻ります。

5.2.4. パラメーター名の表示

チャプター3でもご紹介しましたが、パラメーターをエディットしたりマウスオーバーすると、そのパラメーター名がローツールバー [p.18] の左側に表示されます。

5.3. Oscillator Section - オシレーターセクション

2つのオシレーターでどれだけのことができるのでしょうか？ 多くのキーボードプレイヤーがクラシックな Prophet を追い求めていることを考えると、かなりのものだと言えます。



♪ どちらのオシレーターもすべての波形を同時使用できます。

5.3.1. Oscillator 1



オシレーター1にはノコギリ波と矩形波/パルス波があり、後者はパルス幅を調整できます。このセクションのパラメーターは次の通りです：

- **Frequency**：オシレーターのピッチを半音ステップで設定します。
- **Saw On/Off**：ノコギリ波のオン/オフを切り替えます。
- **Square On/Off**：矩形波/パルス波のオン/オフを切り替えます。
- **Pulse Width**：矩形波/パルス波のパルス幅を調整します。
- **Sync**：オンの場合、オシレーター1のピッチと波形位相がオシレーター2と同期します。



♪ 矩形波のパルス幅を変化させると、波形の正負のサイクルが非対称になります。視覚的に言えば、波形の上側の領域が「太く」なったり「細く」なったりします。音楽的な表現で言えば音の倍音構成が少し変化し、フィルターで加工する前段階で音にちょっとした動きをつけることができます。



♪ オシレーターシンク（テンポ同期と混同しないでください）は、アグレッシブで The Cars を思わせるような派手なサウンドにする重要なテクニックです。実際の音は Vintage Factory バンクの「Sync I」や「Sync II」を聴いてみてください。

5.3.2. Oscillator 2



オシレーター2ではノコギリ波、矩形波/パルス波に加えて、三角波（柔らかな音のサブベースに適しています）も使用できるほか、LFOとしても機能します。

- **Frequency**：オシレーターのピッチを半音ステップで設定します。
- **Fine**：オシレーターのピッチをセント単位で微調整します。
- **Saw On/Off**：ノコギリ波のオン/オフを切り替えます。
- **Triangle On/Off**：三角波のオン/オフを切り替えます。
- **Square On/Off**：矩形波/パルス波のオン/オフを切り替えます。
- **Pulse Width**：矩形波/パルス波のパルス幅を調整します。
- **Lo Freq**：オンの場合、オシレーター2がLFOとして機能します。
- **KBD**：オシレーター2のキーボードトラッキングのオン/オフを切り替えます。

オシレーター2をドローン、つまりキーボードを弾く音程に関係なく一定の音程にしたい場合以外は、**KBD** をオンにします。**Lo Freq** をオンにしてLFOモードにする場合も、通常は**KBD** をオフにします。オンのままでは、キーボードを弾く音程に従ってLFOのスピードも変化してしまいます（とはいえ、やってみるんですよね？）。

5.3.3. Mixer

このセクションでは、オシレーター1と2、ホワイトノイズからの出力をミックスし、その信号をフィルターに送り込みます。



- **Osc 1** : オシレーター1の音量を調節します。
- **Osc 2** : オシレーター2の音量を調節します。
- **Noise** : ホワイトノイズの音量を調節します。

5.3.3.1. ホワイトノイズとは？

ホワイトノイズは、可聴帯域のすべての倍音を (等量で) 含んだ音です。ラジオの定常的なノイズや波の音に似たような音です。ミキサーの出力はすべてフィルターに送られますので、ホワイトノイズはオシレーターからの音とともにフィルターでその倍音構成が変化します。事実、ホワイトノイズをフィルターで加工する、つまりフィルターのカットオフを変化させるのは、風や波の音を作る古典的な手法です。

5.4. Filter

Prophet-5 のフィルターはローパス VCF です。フィルタリング特性の急峻な 24dB/oct のフィルターで、Mini のVCF と比べてもレゾナンスがよく効きます。ただ Prophet はポリフォニックですからコード演奏もできません！ マニアの間では Prophet-5 Rev 2 に搭載されていた Solid State Music (SSM) 2040 VCF チップのほうが、Rev 3 で採用された Curtis チップよりも音が良いとの評判ですので、Prophet-5 V では Rev 2 をモデリングしています。



ローパスフィルターは高性能なトーンコントロールとも言えるでしょう。カットオフフリクエンシーよりも高い周波数帯域を除去し、お好みでカットオフ付近の音量を持ち上げてピークを作るレゾナンス (Q とも言います) があります。フィルターセクションには次のようなパラメーターがあります：

- **Cutoff**：カットオフフリクエンシーを設定します。設定した周波数よりも高い帯域の音がカットされます。
- **Resonance**：カットオフフリクエンシー付近の帯域の音量ピークのレベルを調整します。
- **Env Amt.**：フィルターエンベロープでカットオフフリクエンシーをコントロールする量を調整します。
- **KBD**：カットオフフリクエンシーのキーボードトラッキングのオン/オフを切り替えます。

5.4.1. キーボードトラッキング

フィルターでのキーボードトラッキングは、キーボードで弾く音程に従ってカットオフフリクエンシーが上下する機能です。高い音程ではその分だけカットオフが高くなり、低い音程ではカットオフも低くなります。これは、音程の高い音は倍音成分が増える傾向にある多くのアコースティック楽器の音をエミュレートしている、とも言えます。**KBD** がオフの場合、音程が高くなるほど音色が不自然に暗くなっていきます。もっとも、それが好都合な場合もありますが。

5.4.2. Filter Envelope

フィルターセクションの下段にはフィルターのカットオフリクエンシーを変調する専用エンベロープがあります。フィルターエンベロープは、カットオフのノブをコントロールしてくれる「見えざる手」のようなもので、打鍵のたびに音に変化をつけ、表情のある音にしてくれます。

- **Attack**：打鍵から **Cutoff** ノブで設定した値に到達するまでの時間を調節します。
- **Decay**：エンベロープの最大出力からサステインレベルに落ち着くまでの時間を調節します。
- **Sustain**：ディケイの段階終了後も鍵盤のキーを押し続けている場合に維持されるレベルを設定します。
- **Release**：キーを放した瞬間、サステインレベルから最低レベル (0) に降下していく時間を調節します。

5.5. Amplifier Envelope

音量 (振幅ともいいます) も「見えざる手」でコントロールされます。このことは、アナログシンセの世界ではエンベロープジェネレーターで VCA (ボルテージ・コントロールド・アンプリファイア) に変調をかけることで行なえます。



- **Attack**：打鍵から最大レベル (マスターボリュームの設定値) に到達するまでの時間を調節します。
- **Decay**：最大レベルからサステインレベルに至るまでの時間を調節します。
- **Sustain**：ディケイの段階終了後も鍵盤のキーを押し続けている場合に維持されるレベルを設定します。
- **Release**：キーを放した瞬間、サステインレベルから最低レベル (無音) に降下していく時間を調節します。

i 人間の耳と脳は、他のどの要素よりもボリュームエンベロープの初期段階、つまり音の鳴り始めの部分で音そのものを認識します。例えば、ピアノの音シミュレーションしてアタックを遅くすると、聴いている側ではバイオリンがチェロの音と認識するのが一般的です。

5.6. Modulators

Prophet-5 は、モジュレーションソースとルーティングの設定を1箇所に集めることで使いやすくなるように、そうすることで本体を「板状」の、パッチケーブル不要なポータブルなサイズにすることを目指しました。



このセクションを上から順に見ていきましょう。

5.6.1. POLY MOD

先に触れていますが、このモジュレーションセクションが今では Prophet-5 の設計とそのサウンドに欠かせない大きな特徴だと考えられています。



概念的には2つのソース（フィルターエンベロープとオシレーター2）をミックスして3つのデスティネーションを変調する、というものです。ソースからのモジュレーションの深さは2つのノブで調整し、デスティネーションの選択はスイッチで行います。

- **Filter Env**：フィルターエンベロープによるモジュレーションの深さを調節します。
- **Osc 2**：オシレーター2によるモジュレーションの深さを調節します。
- **Freq 1**：オシレーター1のピッチをデスティネーションにするかどうかを選択します。
- **PW 1**：オシレーター1のパルス幅をデスティネーションにするかどうかを選択します。
- **Filter**：フィルターカットオフをデスティネーションにするかどうかを選択します。

デスティネーションのいずれかのスイッチがオンのときは、POLY-MOD は常時オンになります。そのため、モジュレーションをかけるためにホイールやその他の操作をする必要はありません。

フィルターカットオフをフィルターエンベロープで変調するのは、フィルターセクションでできますから無意味のように見えますが、フィルターエンベロープでその他2つのデスティネーションを変調できますし、フィルターカットオフをオシレーター2で変調することもできます。このことはオシレーター2を LFO モードにしたときに特に便利です。

♪ LFO モード ではない状態のオシレーター2でオシレーター1のピッチを変調すると、ごく基本的な FM シンセシスになります。

5.6.2. LFO

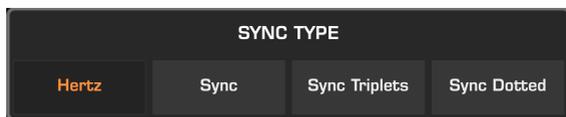
Prophet-5 の LFO は、周期的なモジュレーションをかけるデスティネーションを選択する WHEEL-MOD セクションと連動して動作します。LFO 自体は非常にシンプルなものです。



- **Sync** : LFO の周期を Hz 単位のフリーランニング、またはマスターテンポに同期するかを選択します。
- **Rate** : LFO の周期を設定します。Sync がオンの場合、設定値はマスターテンポに対する拍数 (音符) や小節数になります。
- **Shape** : LFO の波形を選択します。波形にはランプ波 (上昇タイプのノコギリ波)、三角波、矩形波があります。

5.6.2.1. LFO Sync のオプション

LFO の **SYNC** ボタンをクリックすると次のようなポップアップが開きます :



Hertz はフリーランニング (テンポに対して非同期) の設定です。他の3つはテンポ同期をするタイプでそれぞれ通常の音符、三連符、付点音符のタイミングで同期します。これと同じようなメニューは Prophet-5 V のタイム関係のパラメーター (アドバンストモジュレーションの LFO やエフェクトのディレイタイムなど) にあり、だいたいノブ下のドロップダウンメニューという形になっています。

5.6.3. Wheel Mod

WHEEL-MOD セクションでは、LFO とノイズからの信号をミックスして最大5つのデスティネーションにモジュレーションをかけることができます。モジュレーションの深さはモジュレーションホイールで調節しますので（ということはモジュレーションをかけるためにはホイールを手動で上げなくてはならない、ということです）「ホイールMOD」というセクション名になっています。



- **Src Mix** : モジュレーションソースとなる LFO とノイズのミックスバランスを設定します。
- **Destination** : デスティネーションを選択します : ピッチ (Osc 1/2)、パルス幅 (Osc 1/2)、フィルターカットオフ

複数のデスティネーションを同時選択できます。

 アドバンスパネルの [Keyboard タブ \[p.74\]](#)にある [HARDWARE](#) リンクボタンをクリックすると画面上のモジュレーションホイールとお使いの MIDI コントローラーのホイールを簡単にリンクさせることができます。

 シンプルなビブラートをかける場合、通常は **Src Mix** ノブを *LFO* のポジションに回し切った状態にします。また、ピッチやフィルターカットオフをノイズで変調すると、虫が群れをなしてブンブン飛んでいるような質感にできます。

5.7. Keyboard Controls

この2つのコントロールエリアは隣接していませんが、どちらもキーボードの演奏方法と演奏する音に関係しますので、同じセクションとしてまとめてご紹介します。

5.7.1. Glide

グライドはポルタメントとも言いますが、1音弾いて次の音を弾くと、前の音から次の音に向かって音程がなめらかに変化していき、まるで「見えざる手」がリボンコントローラーを巧みに操っているかのような状態になります。



- **Glide**：前の音程から次の音程に移っていく時間 (速度) を設定します。
- **Legato**：オンの場合、グライドはレガート奏法時にのみかかります。

Glide ノブで設定する「時間」は、音程の間隔によって変化する相対的なものです。例えば、同じノブの設定でも前の音と次に弾く音との音程の間隔が広ければ、次に弾く音に到達するまでの実時間は長くなります。

i レガート奏法を簡単に言えば、前の音を完全に放す前に次の音を弾く奏法です。**Legato** をオンにすると、グライドをかけたくない場合は前の音を完全に放してから次の音を弾き、グライドをかけたい場合はレガート奏法で弾くというように、奏法でグライドのオン/オフを弾き分けることができ、より表現力豊かな演奏ができます。

5.7.2. Unison

ユニゾンモードはアナログのポリシンセによくある機能で、ボイスを1音に「重ねる」ことで分厚いモノフォニックサウンドにできるものです。



- **Unison** : ユニゾンモードのオン/オフを切り替えます。
- **Detune** : ボイス間のチューニングの広がり (ズレ) を調節します。

Unison がオンの場合、ローツールバーの [Polyphony \[p.19\]](#) メニューの表示が 2~8 のユニゾンボイスの設定値 (1音に重ねるボイス数) に変わります。

 **Unison Detune** は少し上げるだけでかなり分厚い音になります。さらに上げるとうねるような、やや調子外れなキャラクターになります。

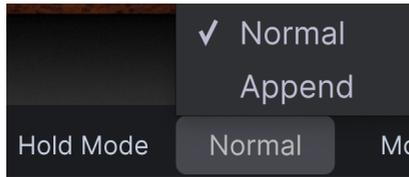
5.7.3. Hold

Hold ボタンをオンにするとハンズフリーならぬ「フットフリー」のサステインペダルがかかったような状態になります。キーボードで弾いた音やアルペジエーター [p.61] で演奏した音がすべて伸びます。



5.7.3.1. Hold Modes

アルペジエーター [p.61] がオンの場合、ホールドには2つのモードがあり、ローツールバーで切り替えることができます。



Normal Mode：キーボードを押さえ続けたり、サステインペダルを踏む必要がなく、その間に音色を調整できますので、音作りをするときに非常に便利です。また、アルペジオパターンの各音が伸びてアルペジオとは言えない代物に変わり果ててしまうようなこともなく、パターンをそのまま演奏し続けます。

Append Mode：キーボードを弾くとアルペジオパターンに音を追加します。これを利用してアルペジエーターをシーケンサーのように活用できます。

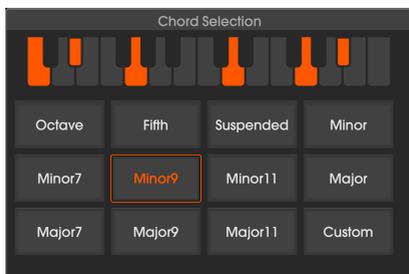
5.7.4. Chord Mode



Prophet-5 Vにはコードをワンフィンガーで演奏できるコードモードがあります。**Chord** ボタンをクリックするとコードモードがオンになります。キーボードで弾いた音がコードのルート音になります。コードの設定方法はこのあとすぐご紹介します。

5.7.5. Chord Select

Select ボタンをクリックすると次のようなメニューが開きます：



このメニューで11種類のコードタイプから選択できます。*Custom* を選択するとメニュー上に小さなキーボードが表示され、コードを自由に設定できます。コードは2オクターブの範囲で設定できます。このメニュー以外のところをクリックするとメニューが閉じます。

5.8. Arpeggiator

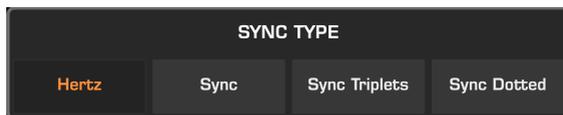
オリジナル Prophet-5 ではこの位置に音色メモリーボタンがあります。Prophet-5 V には**プリセットブラウザ** [p.29]がありますので、このスペースを楽しくてレトロスタイルなアルペジエーターに割り当てています。キーボードで押さえたコードの構成音を1音ずつ順番に演奏して繰り返すアルペジオ演奏ができます。



- **On** : アルペジエーターのオン/オフを切り替えます。
- **Sync** : アルペジエーターの演奏を Hz 表示のフリーランニングにするか、テンポ同期にするかを設定します。
- **Rate** : アルペジエーターの演奏スピードを設定します。 **Sync** がオンの場合は、テンポに対する拍数や小節数になります。
- **Repeat** : アルペジオの各音がリピートする回数を表示します。ここをクリックすると [Arpeggiator Settings メニュー](#) [p.62]が開きます。
- **Octave** : アルペジオパターンが展開するオクターブの幅を設定します。
- **Pattern** : アルペジオパターンのタイプを選択します : Up (上昇)、Down (下降)、Up/Down (上昇/下降)、Order (キーを押した順番)、Random (ランダム)

アルペジオの各音のゲートタイム (音の長さ) は Arpeggiator Settings メニュー (後述) で設定できます。

5.8.1. Arpeggiator Sync Options - 同期オプション

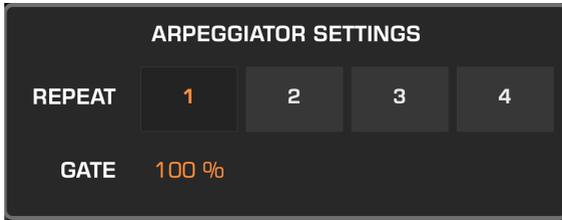


LFO と同様、アルペジエーターもフリーランニング (*Hertz*) か3つのテンポ同期オプション (*Sync*、*Sync Triplets*、*Sync Dotted*) のいずれかを選択できます。 **Sync** ボタンをクリックすると上図のようなメニューが開きます。

 Prophet-5 V をプラグインモードで使用している場合、アルペジエーターが同期するマスターテンポは DAW で設定します。スタンドアロンモードの場合は、 [メインメニュー](#) [p.14]の *Audio MIDI Settings* で設定します。

5.8.2. Arpeggiator Settings

アルペジエーターセクションの "REPEAT" の上にある LED ディスプレイをクリックすると、ノートリピートとゲートタイムを設定するメニューが開きます：



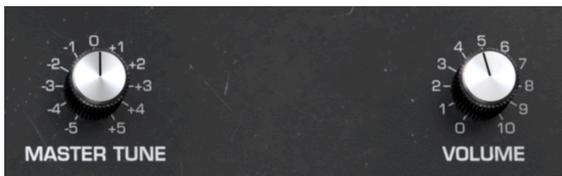
- **Repeat** : アルペジオパターンの各音のリピート回数を設定します。
- **Gate** : 数値をドラッグして各音のゲートタイムを調節します。

i !ゲートタイムを低く設定すると、アルペジオの各音が短くなります。ゲートタイムを 100% に、リピートを 2 以上にセットすると、リピートする音の隙間がなくなり、実際にはリピートしているのですが、リピートしている音がつながっているように聴こえます。そのため、遅いアルペジオを弾いているような状態になります。ゲートタイムを下げることでこの問題は解消できます。

i ♪ やってみましょう : Repeat を 2 に、Gate を 50% 前後に、Octave を 1 に、Pattern を Up/Down にそれぞれセットします。キーボードで5度とその上のオクターブを押さえます。これで The Who の「Baby O'Riley」の左手パートができます。

5.9. Output Section

このシンプルなパラメーターで Prophet-5 V の出力を調節します。



- **Master Tune** : Prophet-5 V のチューニングを Hz 単位で微調整します。
- **Master Volume** : Prophet-5 V の最終ボリューム調整です。

i ♪ Master Volume は何の仕掛けもなく Prophet-5 V の全体的な音量を上げ下げするだけのパラメーターです。例えば、DAW のミックスをクリップさせないように、DAW のミキサー画面で Prophet-5 V のフェーダーを操作しなくても、このノブで簡単に調整できるというメリットもあります。何らかの理由で DAW のフェーダーを操作したくない場合に便利です。

5.10. The Virtual Keyboard



他の Arturia バーチャルインストゥルメントと同様、Prophet-5 V にもバーチャルキーボードがあり、手近なところに MIDI コントローラーがない場合でも Prophet-5 V の音を出すことができます。MIDI コントローラーから弾いた音程や、DAW の MIDI シーケンス演奏の音程がバーチャルキーボードに反映されません。

キーの下側(手前側)をクリックすると MIDI ベロシティの値が高くなります。[Keyboard \[p.76\]](#) パネルでベロシティがまったくマッピングされていないプリセットの場合は、音の変化はありません。

コンピュータのキーボードでも音を出せます。QWERTY キーボードの場合、Q の段が黒鍵、A の段が白鍵として機能します。オクターブのアップ/ダウンは Z と X で行います。

5.10.1. Pitch and Modulation Wheels



画面上のピッチバンドとモジュレーションホイールは、お使いの MIDI コントローラーの対応するコントロール類での操作に反応します。この2つはピッチバンド、モジュレーションにマッピングがそれぞれ固定されており、他の MIDI CC に振り直すことはできません。

i ! MIDI コントローラー上で操作しても画面上のモジュレーションホイールが反応しない場合、MIDI コントローラーから MIDI CC 1 を送信しているかどうかをチェックしてください。ピッチバンドは MIDI CC を設定しなくても対応するようになっていますので、特に設定をしなくてもお使いの MIDI キーボードのピッチバンドを操作すれば反応します。

1. アドバンスパネルの **Keyboard タブ** [p.74]にある **HARDWARE** リンクボタンをクリックすると、お使いの MIDI コントローラーのモジュレーションホイール (またはそれに相当するコントロール) が Prophet-5 V のモジュレーションホイールに接続されます。また、Keyboard タブでは、モジュレーションホイールを含むキーボード関連の各種変化カーブを細かく調整することができます。

5.11. Voice Dispersion

アナログ回路には微妙な個体差があり、それがビンテージシンセのキャラクター (使い古された表現で申し訳ありませんが)「暖かみ」を生み出しています。個体差が大きすぎるのは問題ですが、それを適度な範囲で調整できる洗練された手法が、ボイスディスページョンです。単純なデチューンとは違います。ボイスディスページョンのコントロール類は、バーチャルキーボードの下から2オクターブ目の辺りの「ハッチ」に隠されています。このハッチをクリックすると以下のようなパネルが開きます：



ボイスディスページョンは、ポリフォニックシンセのボイス間の不均一な状態 (バラつき) をハードウェアの状態 (程度) になぞらえて設定できます。3段階のプリセットのほか、自由に設定できる Custom も使用できます。

- **プリセットボタン**：数字が大きいほどハード的な程度が酷くなっていきます。
 - **1**：工場出荷時の状態
 - **2**：経年変化が多少ある状態
 - **3**：再調整が必要なほど程度が悪い状態
 - **Custom**：右側にあるトリムポットで各要素を調整してオリジナルの「程度」を作れます。
 - **Pitch**：ボイス間のピッチのバラつきを設定します。
 - **PW**：オシレーターの矩形波/パルス波の、ボイス間のパルス幅のバラつきを設定します。
 - **Cutoff**：フィルターのカットオフ周波数のボイス間のバラつきを設定します。
 - **Reso**：フィルターのレゾナンスのボイス間のバラつきを設定します。
 - **Env**：エンベロープの挙動のボイス間のバラつきを設定します。
 - **Mod**：モジュレーションの深さのボイス間のバラつきを設定します。

6. ADVANCED MODULATIONS

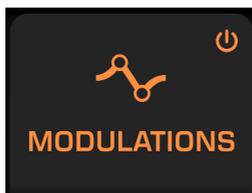
オリジナルを超える Prophet-5 V として機能を追加する方法で最大なもの1つが、オリジナル Prophet-5 にはなかったモジュレーションソースやモジュレーションルーティングを追加することです。こうした追加機能はアドバンスパネルにあり、アッパーツールバー右側にある **Advanced** ボタンをクリックすると開きます。モジュレーション機能は、**Modulations** タブをクリックすると開きます。



6.1. Modulations Tab

Modulations タブには、2つの追加モジュレーションソースとそのパラメーターが表示されます。ソースの1つは非常に細かなコントロールができる LFO (LFO 2)、もう1つは、Arturia では **ファンクション [p.69]** と呼んでいます。エナジードリンクを飲み過ぎたマッドサイエンティストが LFO とエンベロープを合体させたようなもの、があります。

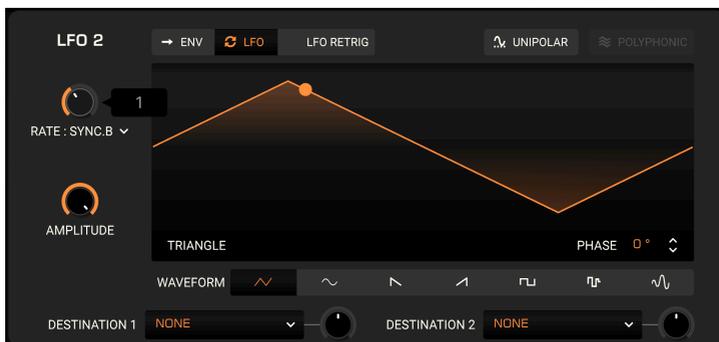
話が前後しますが、タブ自体には **On/Off** ボタンがあります：



このボタンは、LFO 2 やファンクションの設定を変更せずにそれらの機能のオン/オフをワンタッチで切り替えたいときに便利です。

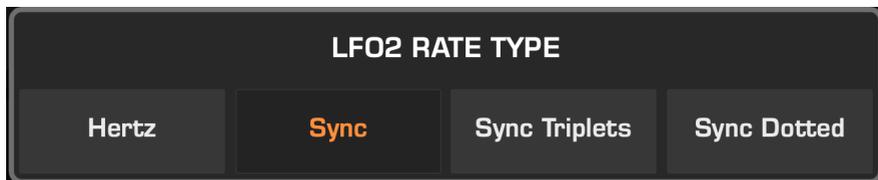
6.1.1. LFO 2

メインシンセパネルの **LFO [p.55]**、あるいは LFO モード時のオシレーター2と比べても、LFO 2 は遙かにフレキシブルな内容になっています。



6.1.1.1. LFO 2 Rate and Modes

Rate ノブで LFO 2 のスピードを設定します。テンポ同期の各種オプションもあります：



Amplitude ノブで LFO 2 の振幅 (モジュレーションの深さ) を調整します。

画面上部に横に並んでいるボタンで LFO 2 の動作モードを選択できます。



左側の3つのボタンで3つの基本的な動作モードから1つを選択します：

- **Env**：エンベロープのように、1周期分だけ動作します (ワンショット動作)。
- **LFO**：通常の LFO として周期的に動作します。
- **LFO Retrig**：LFO モードと同様ですが、ノートオンのたびに波形の先頭に戻って再スタート (再トリガー) します。

右側には2つのオプションがあります：

- **Unipolar**：オンの場合、LFO 2 はプラスの値のみをデスティネーションに出力します。
- **Polyphonic**：オンの場合、LFO 2 がポリフォニック動作になり、ノートオンのたびに波形の先頭からスタートし、ボイスごとにモジュレーションをかけます。オフの場合はモノフォニック動作となり、後から弾いた音は LFO 2 ですでに起こっているモジュレーションにそのまま加わります (後から弾いた音のノートオンのタイミングで LFO 2 の波形が先頭に戻りません)。



!ポリフォニック動作は、動作モードが **Env** か **LFO Retrig** のときにのみ選択できます。

6.1.1.2. LFO 2 の波形と位相

LFO 2 は7種類の波形から選択できます：

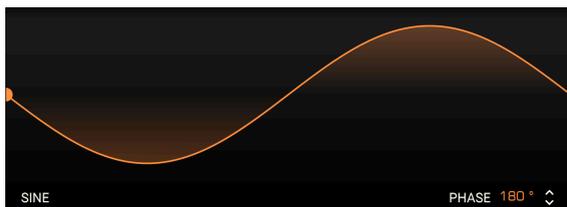


左から順に、三角波、サイン波、ノコギリ波、ランプ波（上昇タイプのノコギリ波）、矩形波、サンプル&ホールド、スムーズなサンプル&ホールド、があります。

♪ サンプル&ホールドを技術用語で言えば、アナログ信号の（電圧などの）変化を捉え（サンプルして）、それを一定時間保持（ホールド）することを繰り返す回路での一連の動作を指します。シンセ用語では、常に変化するパルス幅と振幅の波形を指します。音楽用語で言えば、1970年代の SF 映画に出てくるコンピュータが必死で何かを考えているときの擬似ランダム音、ということになります。

Phase フィールドをドラッグすると、LFO 2 のサイクルのスタートポイントが変化します。フィールドをクリックすると、数値を直接入力することもできます。これはアドバンスパネルの他の数値フィールドでも同様です。

一例として、サイン波のスタート位相を 180° にセットすると下図ようになります：



つまり、通常であればプラス値の領域へ上昇することからスタートするのにマイナス値の領域へ下がっていくわけです。このように、**Phase** パラメーターを使用することで、トリガーされたモジュレーション波形がどこからスタートして、どちらの方向へ進むのかを正確に設定できますので、LFO 2 を *LFO Retrig* や *Polyphonic* モードで使用する場合に特に重要です。

6.1.1.3. LFO 2 をアサインする

このエリアで、LFO 2 を2つのデスティネーションにアサインでき、モジュレーションの深さも個別に設定できます：



デスティネーション名のフィールドをクリックすると、以下のようなメニューが開きます：

LFO2 DESTINATION 1					
Global	Oscillators	Filters	Envelopes	Modulations	Effects
None	Osc 1+2 Frequency	Filter Cutoff	Filter Attack	Lfo2 Rate	Jun Chorus 1 D/W
Lfo1 Rate	Osc 1+2 PW	Filter Res	Filter Decay	Lfo2 Amp	Jun Chorus 1 Depth
PM Filter Env Amt	Osc 1 Frequency	Filter Env Amount	Filter Sustain	Lfo2 Phase	Reverb 2 D/W
PM Osc 2 Amt	Osc 1 PW		Filter Release	Function Rate	Reverb 2 Decay
WM Source Mix	Osc 2 Frequency		Amplifier Attack	Function Amp	FX 3 D/W
Glide Time	Osc 2 PW		Amplifier Decay		FX 3 Param
Unison Detune	Osc 2 Fine		Amplifier Sustain		
Arp Rate	Osc 1 Level		Amplifier Release		
Arp Gate	Osc 2 Level				
	Noise Level				

Effects コラムに表示されるパラメーター名は、そのときに使用しているエフェクト [p.77] で変わります。上図の例では、FX 3 に具体的なエフェクト/パラメーター名がありませんが、これは FX 3 にはエフェクトがアサインされていないためです。

デスティネーションフィールドの右にある **Amount** ノブでモジュレーションの深さを設定しますが、このノブはバイポーラですので、マイナス値に設定することもできます。また、このノブの設定値は LFO 2 の **Amplitude** ノブの設定値に対する係数 (-1.00~1.00) として機能します。

! LFO 2 が **Unipolar** (ユニポーラ) モードの場合、**Amount** ノブの設定値をマイナス側に振り切ると、デスティネーションのパラメーター値がゼロになることがありますのでご注意ください。

6.1.2. The Function

ファンクションジェネレーターは、エンベロープと LFO が合体した非常にフレキシブルなものと言えます。考え方としては、モジュレーションの形（カーブなど）を好きなように作ることができ、それを2つのデスティネーションにアサインしてモジュレーションをかけることができる、というものです。



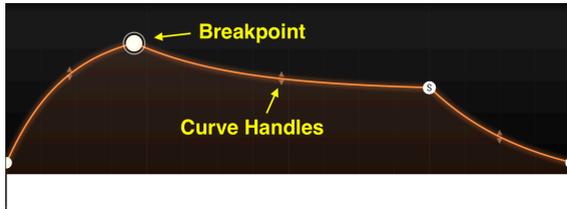
6.1.2.1. ファンクションのプリセット

オリジナルのファンクションを作る前に、Preset フィールドにあるファンクションのファクトリープリセットをチェックして、ファンクションが何をするものなのか、そのイメージを掴んでみてください。プリセットフィールドは6種類のプリセットが4ページありますので、全部で24種類入っています。ページ移動はフィールドの左右にある矢印ボタン(<、>)で行います。



6.1.2.2. ブレイクポイント

では、ファンクションのエディットや作り方をご紹介します。ファンクションは、2つの要素で作られています。1つは ブレイクポイント (下図の白丸)、もう1つはブレイクポイント間を結ぶカーブ (ラインセグメント) です。X 軸 (横軸) が時間、Y 軸 (縦軸) はモジュレーション信号の振幅 (レベル) を表します。



ビジュアルライザー内の任意の位置をクリックするとポイントが追加されます。もう一度クリックするとポイントがもう1つ追加されます。1つのファンクションでポイントは最大16個まで使用できます。

ポイントを右クリック、または Ctrl-クリックすると削除できます。



! 最初と最後のポイントを削除したり、左右方向に移動させることはできません。上下方向のみ移動できます。



♪ エンベロープモードの場合、"S" の文字が入ったブレイクポイント (の Y 軸上の位置) は、そのファンクションのサステインレベルとなります。エンベロープモードでは、ポイントをダブルクリックするとそのポイントがサステインポイントになります。

6.1.2.3. ブレイクポイントを移動させる

ブレイクポイントをファンクション内で移動させるには、移動させたいポイント (白丸) をドラッグします。上下に移動させればレベルが変化し、左右に移動させればファンクション内でのタイミングが変化します。

別の方法として、下図の数値フィールドをドラッグしてポイントを選択し、その位置を変更することもできます：



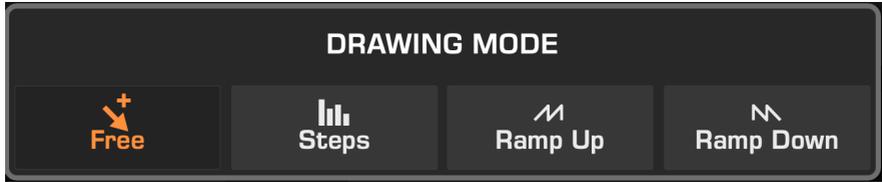
- **Point** : ファンクション内のブレイクポイントを選択します。
- **Level** : 選択したポイントの Y 軸上の位置を設定します。
- **Time** : 選択したポイントの X 軸上の位置を設定します。

6.1.2.4. カーブを変更する

2つのポイントを結ぶ線の間地点に、上下の矢印があります。これはカーブハンドルと言います。このカーブハンドルをゆっくりと上か下に移動させてみてください。この時、線がどんどん歪んでいき、最終的には四角くなります。この傾斜が急なほど、変化するスピードが速くなります。

6.1.2.5. ドローイングツール

Draw Mode をクリックするとドローイングモードのメニューが開きます。ビジュアライザー内でクリック-ドラッグすることで繰り返しの「波形」を描くことができ、ファンクションを素早く作成できます。



- **Draw (Free)** : ポイントを1つ作成します。
- **Steps** : 繰り返しの矩形波風のパターンを作成します。
- **Ramp Up** : 上昇するノコギリ波のパターンを作成します。
- **Ramp Down** : 下降するノコギリ波のパターンを作成します。

以下は、*Steps* ツールで作成したファンクションの一例です :

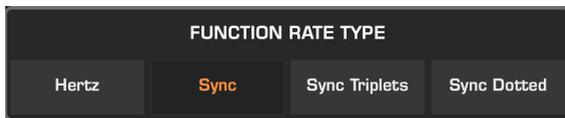


ビジュアライザー内にマウスカーソルを入れるとえんぴつアイコンに変わります。変わりましたらドラッグしてください。

パターンの全部や一部を「フラット化」してブレイクポイントを削除するには、右クリック (または Ctrl-クリック) してドラッグします。

6.1.2.6. Function Rate, Amplitude, and Modes

ファンクションのレート (スピード)、レベル (アンプリチュード)、モードは、[LFO 2 \[p.65\]](#) のそれらと同様の動作をします。**Rate** ノブでファンクションが進行するスピードを設定でき、もうお馴染みかと思いますが以下のようなテンポ同期オプションもあります：



Amplitude ノブでファンクションの全体的な出力レベルを設定します。

3つのモードの動作も LFO 2 のそれと同様で、ファンクションの動作モードを選択します。



左側の3つのボタンも LFO 2 のそれと同様、いずれか1つのみを選択できます。

- **Env**：エンベロープのように、1周期分だけ動作します (ワンショット動作)。
- **LFO**：LFO のように繰り返すループ動作です。
- **LFO Retrig**：LFO モードと同様ですが、ノートオンのたびにファンクションの先頭に戻って再スタート (再トリガー) します。
- **Unipolar**：オンの場合、ファンクションはプラスの値のみをデスティネーションに出力します。
- **Polyphonic**：オンの場合、ファンクションがポリフォニック動作になり、ノートオンのたびに先頭からスタートし、ボイスごとにモジュレーションをかけます。オフの場合はモノフォニック動作となり、後から弾いた音はファンクションですでに起こっているモジュレーションにそのまま加わります (後から弾いた音のノートオンのタイミングでファンクションの先頭に戻りません)。



! ポリフォニック動作は **Env** と **LFO Retrig** モードでのみ使用できます。

6.1.2.7. ファンクションをアサインする

LFO 2 と同様、ファンクションも2つのデスティネーションにアサインでき、モジュレーションの深さも個別に設定できます：



デスティネーション名のフィールドをクリックすると、以下のようなメニューが開きます：

FUNCTION DESTINATION 1					
Global	Oscillators	Filters	Envelopes	Modulations	Effects
None	Osc 1+2 Frequency	Filter Cutoff	Filter Attack	Lfo2 Rate	Jun Chorus 1 D/W
Lfo1 Rate	Osc 1+2 PW	Filter Res	Filter Decay	Lfo2 Amp	Jun Chorus 1 Depth
PM Filter Env Amt	Osc 1 Frequency	Filter Env Amount	Filter Sustain	Lfo2 Phase	Reverb 2 D/W
PM Osc 2 Amt	Osc 1 PW		Filter Release	Function Rate	Reverb 2 Decay
WM Source Mix	Osc 2 Frequency		Amplifier Attack	Function Amp	FX 3 D/W
Glide Time	Osc 2 PW		Amplifier Decay		FX 3 Param
Unison Detune	Osc 2 Fine		Amplifier Sustain		
Arp Rate	Osc 1 Level		Amplifier Release		
Arp Gate	Osc 2 Level				
	Noise Level				

Effects コラムに表示されるパラメーター名は、そのときに使用しているエフェクト [p.77] で変わります。上図の例では、FX 3 に具体的なエフェクト/パラメーター名がありませんが、これは FX 3 にはエフェクトがアサインされていないためです。

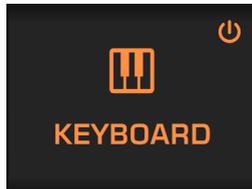
デスティネーションフィールドの右にある **Amount** ノブでモジュレーションの深さを設定しますが、このノブはバイポーラですので、マイナス値に設定することもできます。

6.2. Keyboard Tab

ビンテージの Prophet-5 はベロシティにもアフタータッチにも対応していません。Prophet-5 V では、ベロシティもアフタータッチも、モジュレーションホイールもキーボードトラックもそれぞれ3つまでのデスティネーションをアサインできます。目指すのは、これまでと同様、カスタマイズ性の高い表現力豊かな演奏です。



Modulations タブと同様、On/Off ボタンで各ソースのセッティングはそのままに、4つのソースのオン/オフを一斉に切り替えることができます。



4つの各画面では、それぞれのソースのレスポンスカーブを個別に作成できます。各ソースのパラメーター構成や各パラメーターの動作は同じですので、Velocity をメインの例として各パラメーター等をご紹介します。他のソースに関連する違いにつきましては、それぞれのセクションでご紹介します。

6.2.1. Velocity

Velocity 画面では、MIDI ベロシティでコントロールするパラメーターを選択できます。



ファンクション [p.69]をお読みになった方はもうお馴染みですよね。カーブ表示エリア内をクリックするとブレイクポイントが追加され、2つのポイント間を結ぶ線の間地点にある上下の矢印（カーブハンドル）をドラッグすると2点間の線のカーブが変わります。

追加できるブレイクポイントは2つまでで、最初と最後のポイントは移動できませんので、仕組みはファンクションよりもシンプルです。

表示エリア内に縦の線がありますが、これは直近に弾いた MIDI ベロシティ値をリアルタイムで表示するものです。

6.2.2. Aftertouch

Aftertouch 画面の各パラメーターとその動作は Velocity 画面のそれらを同じです。もちろん取り扱うのはベロシティではなくアフタータッチですが。



サイドパネルの **Settings** タブで MPE をオン (Enable) にセットし、MPE 対応コントローラーを接続している場合、アフタータッチはポリフォニック動作になります。

6.2.3. Modulation Wheel



画面左上に **Hardware** リンクボタンがあります。これをオンにすることで Prophet-5 V の画面上の MOD ホイールとお使いの MIDI コントローラーのホイール (あるいはその他のタイプのコントロール) が接続され、ここで設定するカーブ等の設定でパラメーターをコントロールできます。これにより、メインシンセパネルの [Wheel Mod \[p.56\]](#) セクションをさらに便利に、表現力豊かに使用できるようになります。

6.2.4. Keyboard



この画面ではキーボードトラッキング、言い換えれば受信した MIDI ノートオンメッセージのピッチ情報を取り扱います。キーボードトラッキングはシンセのフィルターセクションによくある機能で、Prophet-5 V にもあります。ですが、ここではそのカーブやデスティネーションを設定でき、そのポテンシャルを大きく拡張することができます。

6.2.5. デスティネーションをアサインする

デスティネーションのアサイン方法は4つの画面とも同じです。デスティネーションフィールドをクリックしてメニューを開きます。

VELOCITY DESTINATION 1					
Global	Oscillators	Filters	Envelopes	Modulations	Effects
None	Osc 1+2 Frequency	Filter Cutoff	Filter Attack	Lfo2 Rate	Jun Chorus 1 D/W
Lfo1 Rate	Osc 1+2 PW	Filter Res	Filter Decay	Lfo2 Amp	Jun Chorus 1 Depth
PM Filter Env Amt	Osc 1 Frequency	Filter Env Amount	Filter Sustain	Lfo2 Phase	Reverb 2 D/W
PM Osc 2 Amt	Osc 1 PW		Filter Release	Function Rate	Reverb 2 Decay
WM Source Mix	Osc 2 Frequency		Amplifier Attack	Function Amp	FX 3 D/W
Glide Time	Osc 2 PW		Amplifier Decay		FX 3 Param
Unison Detune	Osc 2 Fine		Amplifier Sustain		
Arp Rate	Osc 1 Level		Amplifier Release		
Arp Gate	Osc 2 Level				
	Noise Level				

次に、コントロールしたいパラメーターを選択します。LFO 2やファンクションと同様、Effects コラムに表示されるパラメーター名は、そのときに使用しているエフェクトで変わります。

7. EFFECTS

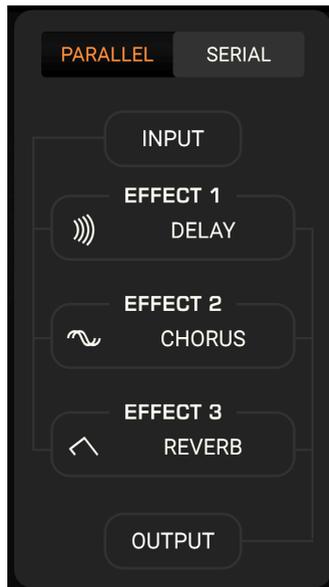
Prophet-5 V は豊富なタイプのエフェクトを内蔵しています。アドバンスパネルをまだ開いていない場合は、アッパーツールバー右側にある **Advanced** ボタンをクリックし、**Effects** タブを開いてみてください。



最大3つまでのエフェクトを同時使用でき、エフェクトの接続はシリアル (直列) とパラレル (並列) が選択できます。エフェクトは16種類から選択でき、3つあるエフェクトスロットにそれぞれ1つずつ入れることができます。上図はエフェクトを3つ使用している状態の例です。

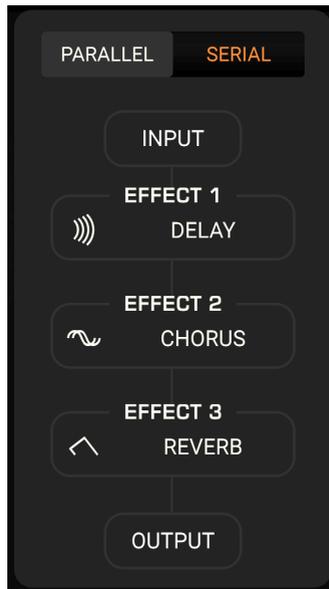
7.1. エフェクトの接続

エフェクトの接続には2つのタイプ (パラレルとシリアル) があります。パラレル モードでは、Prophet-5 V からの信号を個別に入力し、各エフェクトからの信号をミックスして最終出力へ送ります。



つまり、ほとんどの場合、エフェクトの1つをエディットしても他の エフェクト に直接...うへん、影響することはありません (もちろんエフェクトをエディットしていますから、全体的な音は変わるのですが)。

シリアル モードの場合は、シンセからの信号がエフェクトスロット1に入り、次にスロット2、その次にスロット3へと直列つなぎで信号が流れていきます。



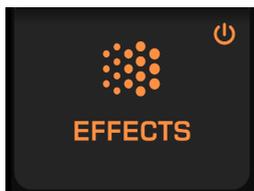
つまり、前のエフェクトに次のエフェクトが重なっていきます。そのため例えば、コーラスの前にディストーションを入れた場合の音と、ディストーションの前にコーラスを入れた音は違う音になるということです。

i ! シリアル接続では、前のエフェクトから次のエフェクトへとゲインが蓄積されていき、オーバーロードになることがありますので注意が必要です。

7.2. Effects タブでの共通機能

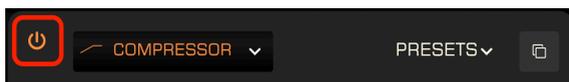
まずは Effects タブや各エフェクトでの共通機能を見ていきましょう。

7.2.1. メイン On/Off ボタン



Effects タブ自身の右上には、すべてのエフェクトのオン/オフを一斉に切り替えるボタンがあります。各エフェクトの設定を変更せずにエフェクト全体をオン/オフして音の変化を確認したいときなどに便利です。

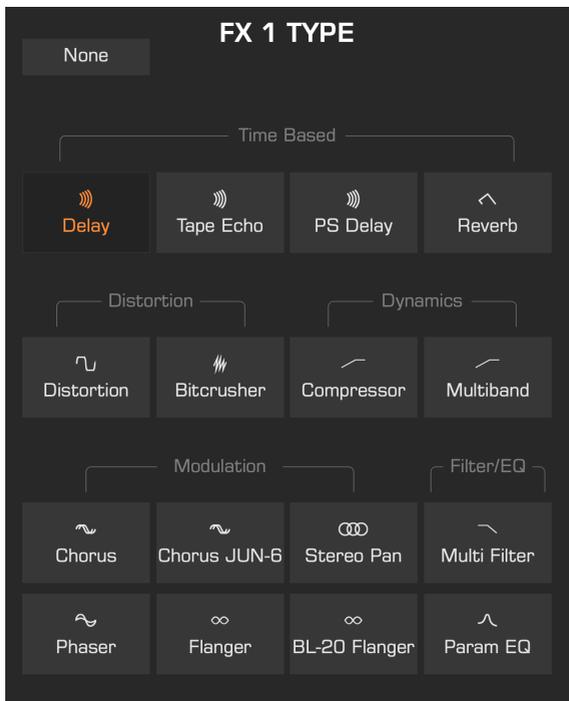
7.2.2. バイパスボタン



さらに、各エフェクトスロットの左上にも On/Off ボタンがあります。そのエフェクトの設定を変更せずに音の変化を確認したり、単純にバイパスしたいときなどに便利です。

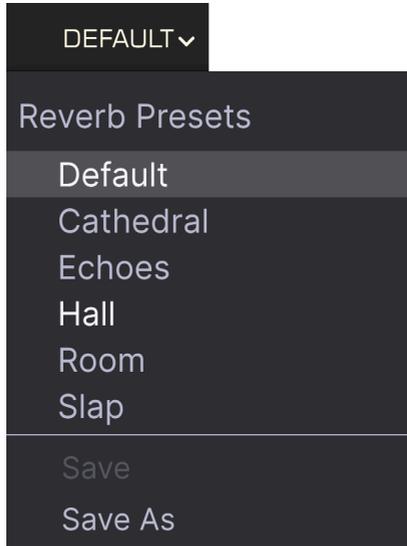
7.2.3. エフェクト選択メニュー

このメニューで16種類のエフェクトから各スロットに入れるエフェクトを1つずつ選択できます。



7.2.4. エフェクトプリセット

各エフェクトにはプリセットが豊富に入っています。"Save As" を使用して別名でセーブすることもできます。



エフェクトプリセットは「プリセット内プリセット」です。つまり、ここでの選択も音色プリセットの一部としてセーブされます。

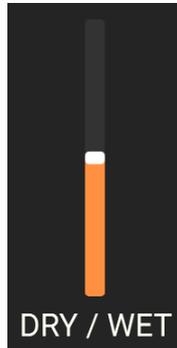
7.2.5. エフェクトのコピー



エフェクトの選択とそのセッティング内容を別のスロットにコピーできます。

7.2.6. Dry/Wet スライダー

パラメトリック EQ、マルチバンド、ステレオパン以外の各エフェクトには、エフェクト音とドライ音 (エフェクトがかかっていない音) のミックスバランスを調整する縦スライダーがあります。



ここでの「ドライ音」は、あくまでも「そのエフェクトがかかっていない音」であり、前のエフェクトでのエフェクト音を含む場合があります。

7.3. 各エフェクトのパラメーター

Prophet-5 Vの各エフェクトにはそれぞれいくつかのパラメーターがあります。

各エフェクトパラメーターがどんな働きをするのかは、ぜひご自身でチェックしてみてください。ここではエフェクトごとのパラメーターを表形式でご紹介しておきます。

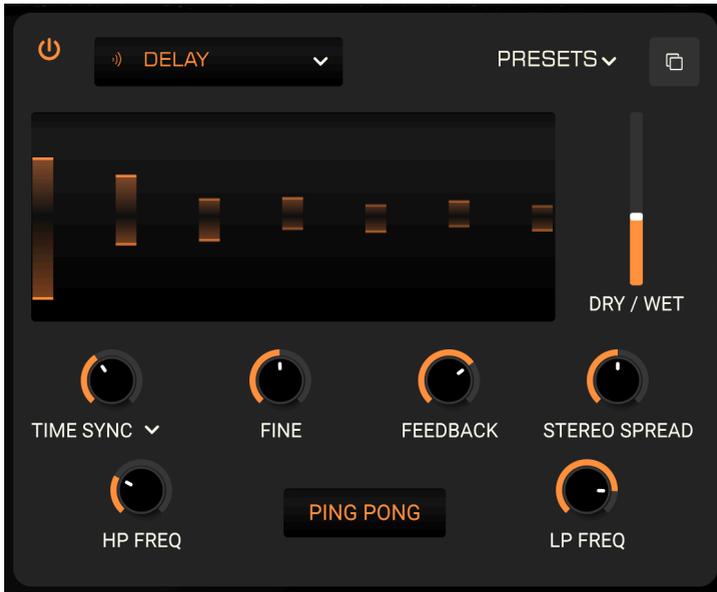
7.3.1. Reverb



リバーブは、別途プラグインを立ち上げなくてもシンセサウンドをスタジオグレードの音響空間へ誘うエフェクトです。

パラメーター	内容
Size	バーチャルな音響空間のサイズを設定します。
Predelay	入力信号と初期反射音との間での時間的間隔を調整します。
Decay	リバーブの長さ(フェイドアウトして消えるまでの時間)を設定します。
Damping	リバーブ音の高周波成分が減衰する大きさを設定します。
Stereo Width	リバーブ音のステレオの広がりを調整します。
Input HP	入力信号(リバーブ音ではありません)の低音域をフィルタリングします。
Input LP	入力信号(リバーブ音ではありません)の高音域をフィルタリングします。

7.3.2. Delay



ディレイはテンポ同期や、ディレイ音がステレオ空間を飛び交うピンポンモードに対応しています。

パラメーター	内容
Time	ディレイタイムを設定します。
Time Type	ドロップダウンメニューからテンポ同期のタイプを選択できます。テンポ同期の場合、ディレイタイムはテンポに対する拍数や小節数になります。
Fine	ディレイタイムを ms 単位でオフセットして微調整します。
Feedback	ディレイ音をディレイに再入力(フィードバック)させてディレイ音の繰り返し量を設定します。
Ping-Pong	ピンポンモードのオン/オフを切り替えます。
Stereo Width	ディレイ音のステレオの広がりを調整します。
HP Freq	ディレイ音のみの低音域にフィルターをかけます。
LP Freq	ディレイ音のみの高音域にフィルターをかけます。

Note：グラフィックビジュアライザー内で縦にドラッグして Feedback を、横にドラッグして Time を調整できます。

7.3.3. Tape Echo

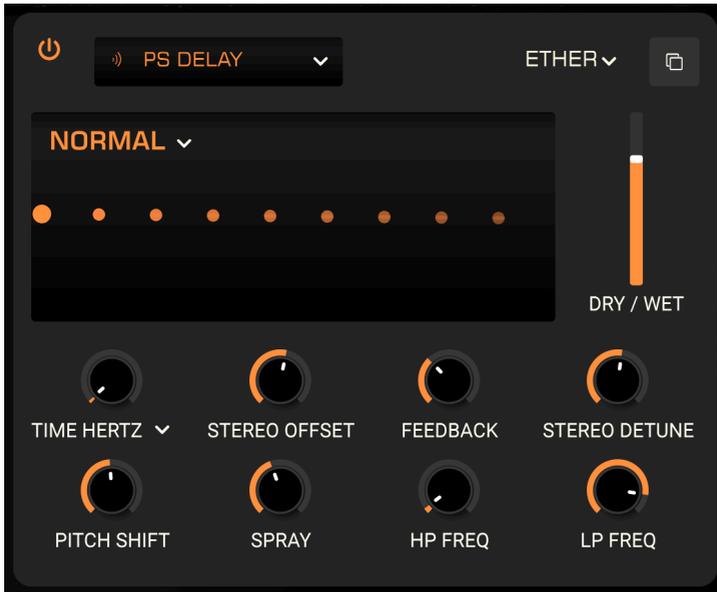


テープエコー（入力信号の記録媒体にアナログテープを使用したディレイ）を再現したものです。このエフェクトもテンポ同期に対応しています。

パラメーター	内容
Time	ディレイタイムを設定します。
Time Type	ドロップダウンメニューからテンポ同期のタイプを選択できます。テンポ同期の場合、ディレイタイムはテンポに対する拍数や小節数になります。
Fine	ディレイタイムを ms 単位でオフセットして微調整します。
Input Vol.	入力ゲインを設定します。高く設定すると音が歪むことがあります。
Intensity	ディレイ音を再入力（フィードバック）させてディレイ音の繰り返し量を設定します。
Ping-Pong	ピンポンモードのオン/オフを切り替えます。
Width	左右チャンネルのディレイタイムにオフセットをかけてステレオの広がりを演出します。

Note：グラフィックビジュアライザー内で縦にドラッグして Intensity を、横にドラッグして Time を調整できます。

7.3.4. Pitch-Shift Delay



ディレイの繰り返しのたびにディレイ音のピッチが変化していきます。このエフェクトもテンポ同期に対応しています。

パラメーター	内容
Mode	ドロップダウンメニューからモードを Normal、Octave-Up、Octave-Down から選択できます。
Time	ディレイタイムを設定します。
Time Type	ドロップダウンメニューからテンポ同期のタイプを選択できます。テンポ同期の場合、ディレイタイムはテンポに対する拍数や小節数になります。
Stereo Offset	左右チャンネルのディレイタイムにオフセットをかけてステレオの広がりを演出します。
Feedback	ディレイ音を再入力(フィードバック)させてディレイ音の繰り返し量を設定します。
Stereo Detune	左右チャンネルのディレイ音のピッチを微調整します。
Pitch	ディレイ音のピッチシフト量を半音単位で設定します。
Spray	ディレイ音が発音するタイミングをある程度ランダム化します。
HP Freq	ディレイ音のみの低音域にフィルターをかけます。
LP Freq	ディレイ音のみの高音域にフィルターをかけます。

Note：グラフィックビジュアライザー内で縦にドラッグして Feedback を、横にドラッグして Time を調整できます。

7.3.5. Chorus



入力信号の音を厚くする機能フル装備のコラスです。

パラメーター	内容
Rate	コーラス LFO の周期を設定します。
Depth	LFO のうねりの深さを設定します。
Delay	コーラスのディレイタイムを設定します。
Feedback	コーラス音を再入力 (フィードバック) させる量を設定します。
Wave Select	コーラス LFO の波形をサイン波または三角波に切り替えます。
Mono/Stereo	コーラスの動作モードをモノまたはステレオに切り替えます。
Voices	コーラス音のボイス数を 1~3 の範囲で設定します。

7.3.6. Chorus JUN-6

往年の6ボイスポリシンセの某シリーズに内蔵されていた分厚いサウンドのコーラスエフェクトは、今日でも大人気です。そのコーラスサウンドを Prophet にかけることができるのです！



パラメーター	内容
Rate	コーラスのうねりの周期を調整します。
Rate Time	うねりの周期をテンポ同期させるかどうかなどを設定します。
Depth	コーラスのうねりの深さを調整します。
Phase	ドライ音とコーラス音の位相差を設定します。

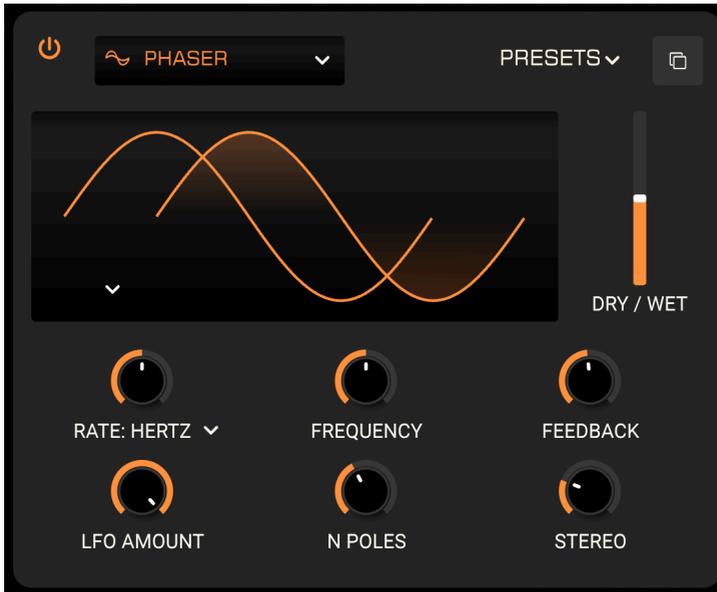
7.3.7. Flanger



かつては「ジェットサウンド」などと言われていたフランジャーは、ロックやエレクトロニック・ミュージックでよく登場するエフェクトです。

パラメーター	内容
Rate	フランジャー LFO の周期を設定します。
Rate Type	ドロップダウンメニューからテンポ同期のタイプを選択できます。テンポ同期の場合、LFO の周期はテンポに対する拍数や小節数になります。
Delay	フランジャーのディレイタイムを設定します。この設定でフランジャー効果がかかる帯域が変わります。
Depth	LFO のうねりの深さを調整します。
Feedback	フランジャー音を再入力（フィードバック）させる量を設定します。
+/-	ビジュアライザー右下にあるアイコンでフィードバックループのキャラクターを+（アディティブ）または-（サブトラクティブ）に切り替えます。
Wave Select	ビジュアライザー左下にあるアイコンで LFO の波形をサイン波または三角波に切り替えます。
Mono/Stereo	フランジャーの動作モードをモノまたはステレオに切り替えます。
HP Freq	フランジャー音のみの低音域にフィルターをかけます。
LP Freq	フランジャー音のみの高音域にフィルターをかけます。

7.3.8. Phaser



アナログのストリングマシンやいわゆる「ヨットロック」で聴かれるエレピの特徴的な「シュワシュワ/ジョワジョワ」サウンドは、入力信号の位相を変化させた音と入力信号をミックスして位相の干渉によるコムフィルター効果を作り出し、その帯域を変化させることで独特のスウィープサウンドを作り出します。それが、フェイザーというエフェクトです。

パラメーター	内容
Rate	フェイザーのうねりの周期を設定します。
Rate Type	うねりの周期を Hz 単位のフリーランニング、またはテンポ同期に設定します。
Frequency	フェイザー効果の中心帯域を設定します。
Feedback	フェイザー音を再入力 (フィードバック) させてレゾナンスを作ります。
LFO Amount	フェイザーのうねりの深さを調整します。
LFO Wave	ビジュアライザーのドロップダウンメニューから LFO 波形を6種類から選択します。
N Poles	オールパスフィルター (位相を変化させるフィルター) のペア数を設定します。数値を高くするほどフィルターのバンド幅が狭くなり、より強烈なフェイザー効果になります。
Stereo	フェイザー効果のステレオの広がりを調節します。最低値ではモノになります。

Note：グラフィックビジュアライザー内で縦にドラッグして Feedback を、横にドラッグして Frequency を調整できます。

7.3.9. Compressor



レシオ、スレッシュホールド、メイクアップゲインの各パラメーターを備えたクラシックなコンプレッサーです。

パラメーター	内容
Threshold	コンプレッサーによるゲインリダクションが発生するレベルを設定します。
Output Gain	コンプレッサーの出力レベルを設定します。
Makeup	コンプレッションによる全体的な音量低下を自動補正します。
Attack	入力信号のレベルがスレッシュホールドを超えた瞬間からコンプレッサーが反応する時間を設定します。
Release	入力信号のレベルがスレッシュホールドを下回った瞬間からコンプレッションが開放されるまでの時間を設定します。
Ratio	入力信号のレベルがスレッシュホールドを超えたときのコンプレッション量 (圧縮率) を設定します。

7.3.10. Multiband



Prophet-5 V のマルチバンドコンプレッサーは、最大3つの周波数帯域で個別にコンプレッション/エクスパンションをかけることができます。また、2つのバンドのオン/オフを切り替えることも可能です(2つのバンドをオフにした場合は、1バンド (フルレンジ) のコンプレッサー/エクスパンダーとして機能します)。

パラメーター	内容
Threshold	ビジュアライザー内の各バンド (棒グラフ) の最上部または最下部をドラッグしてそのバンドのゲイン圧縮 (コンプレッション) またはゲイン伸長 (エクスパンション) が発生するレベルを設定します。
Ratio	ビジュアライザー内の各バンド (棒グラフ) の 中をドラッグして圧縮率/伸長率を設定します。
Low On/Off	ローバンドのオン/オフを切り替えます。
High On/Off	ハイバンドのオン/オフを切り替えます。
Low-Mid Crossover	ドラッグしてローバンドとミッドバンド境界周波数 (クロスオーバー周波数) を設定します。
Mid-High Crossover	ドラッグしてミッドバンドとハイバンドのクロスオーバー周波数を設定します。
Out Low	ローバンドの出力レベルを設定します。
Out Mid	ミッドバンドの出力レベルを設定します。
Out High	ハイバンドの出力レベルを設定します。
Input	全バンドの入力ゲインを調整します。

パラメーター	内容
Attack	入力信号がスレッシュホールドレベルを超えた瞬間からコンプレッサー/エクスパンダーが反応するまでの時間を設定します。
Release	入力信号がスレッシュホールドレベルを下回った瞬間からコンプレッション/エクスパンションを開放するまでの時間を設定します。
Above/ Below	ドロップダウンメニューから動作モードをコンプレッサー & エクスパンダー (Above & Below) またはコンプレッサーのみ (Above Only) を選択します。
Output	コンプレッション/エクスパンション後の全体的な出力レベルを設定します。
Amount	全体的なコンプレッション量を Dry/Wet スライダーのように調整します。

7.3.11. Bitcrusher



入力信号のビット解像度を下げ、ダウンサンプリング、つまりより低いサンプルレートでリサンプリングしてローファイサウンドを作ります。Prophet-5 V のサウンドを80年代サンプラーや太古のテレビゲームのサウンドにできる、サウンドの破壊者、それがビットクラッシャーです。

パラメーター	内容
Bit Depth	ビット解像度を変更します。
Downsampling	サンプルレートを下げます。

Note：ビジュアライザー内を縦にドラッグして Downsampling を、横にドラッグして Bit Depth をそれぞれ調整できます。

7.3.12. Multi-Filter



ハイパス、バンドパス、ローパスと、2つのコムモード（フィードバック、フィードフォワード）を選択できる、シンセスタイルのフィルターです。

パラメーター	内容
Frequency	カットオフフリクエンシー/センターフリクエンシーを設定します。
Resonance	フィルターフリクエンシー付近にピークを作るレベルを調整します。
Slope	フィルターのカーブを 12、24、36dB/oct から選択します。コムフィルターにはスロープがありません。
Mode (ドロップダウン)	フィルターモードを選択します。

7.3.13. Param EQ



イコライザー (EQ) には特定の帯域をカット/ブーストする働きがあります。パラメトリック EQ では、複数ある帯域それぞれの帯域幅 (Q) や中心周波数を設定した上で各バンドをカット/ブーストでき、より細やかな音質補正が行なえます。

パラメーター	内容
Band Select	バンド (周波数帯域) を選択します。
Frequency	選択したバンドの中心周波数を設定します。
Gain	選択したバンドのカット/ブースト量を設定します。
Q	選択したバンドの周波数を中心とした帯域幅を調整します。
Scale	EQ 全体のかかり具合を Dry/Wet スライダーのように調整します。

ビジュアライザー内のサークルをドラッグすると、そのバンドの周波数とゲインを同時に調整できます。また、ビジュアライザーの下にあるタブをクリックしてバンドを選択できます。

7.3.14. Stereo Pan



ステレオパンは、入力信号の音像をシンプルな LFO で左右に移動させるエフェクトです。左右に移動する幅も調節でき、他にも便利な機能を備えています。

パラメータ	内容
Rate	音像が左右に移動する周期を設定します。
Rate Type	移動の周期モードを Hz 単位のフリーランニング、またはテンポ同期に設定します。
Mono Bass	オンの場合、 Cutoff で設定した周波数以下の帯域をセンター定位固定にします。
Cutoff	Mono Bass がオンのときのカットオフ周波数を設定します。
Natural/Linear	<i>Natural</i> モードでは、ドライ音とエフェクト音がバランス良く聴こえます。 <i>Linear</i> モードでは、エフェクト音のみになります。
Amount	センター定位から左右へのパンニングの広がり进行调整します。

7.3.15. Distortion



Prophet-5 V のディストーションは、従来のファズボックス的ディストーションの枠を大きく超え、ソフト/ハードクリッピングやテープサチュレーション、その他トラディショナルなものとは異なる波形加工手法などを含む、全15種類のアルゴリズムを内蔵しています。全タイプともぜひお試しください！

パラメータ	内容
Drive	エフェクターのディストーションやアンプの「プリゲイン」に相当するもので、ディストーションに送り込む信号量を設定します。
Output Gain	ディストーションの出力レベルを設定します。
Auto	出力レベルを自動補正して、このエフェクト以後での信号クリップを防止します。
Type	ドロップダウンメニューで15種類のアルゴリズムからディストーションのタイプを選択します。
Filter On/Off	内蔵フィルターのオン/オフを切り替えます。
Cutoff	内蔵フィルターのカットオフ/センターフリクエンシーを設定します。
Resonance	フィルターフリクエンシー付近のピークレベルを調整します。
Filter Mode	ローパス、バンドパス、ハイパスの3種類からフィルターモードを選択します。
Pre/Post	内蔵フィルターの接続位置をディストーションの前または後ろに切り替えます。
Dark	内蔵フィルターとは別に、ディストーションの出力に 12dB/oct のローパスフィルターをかけます。

7.3.16. BL-20 Flanger



BL-20 フランジャーは、1970年代のレアなフランジャー Bel BL-20 のサウンドをエミュレートしたものです。入力信号に短いディレイをかけ、そのディレイタイムを LFO で揺らし、入力信号とミックスしてフランジャーサウンドを作っています。

パラメーター	内容
Rate	ディレイ成分 (フランジャー音) のディレイタイムを揺らす LFO の周期を設定します。
Rate Time	LFO の周期モードを Hz 単位のフリーランニング、またはテンポ同期に設定します。
Depth	LFO によるディレイ成分の変調量 (モジュレーションの深さ) を調節します。
Delay	フランジャーのディレイタイムを設定します。
Feedback	フランジャー音を再入力 (フィードバック) させる量を設定します。
Wide	右チャンネルの LFO 位相を反転させて左右に広がったフランジャー音にします。
Mono Input	モノの入力信号に最適化します。

8. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンスターとしてお客様（被ライセンスター）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡後にはできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとしします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとしします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとしします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとしします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。